

ものごとを多面的に捉え、 平和的に解決できる力を 育てるために

～ いつでも、どこでも、誰でもできる

平和教育実践記録集 ～

学校に行けない子がかわいそうに見えるけど、その国の神様の考えを信じる人もいる。気持ちがひとつになっていく日を見たい。
(小5言語科)

みんなで協力して考えたらグループのみんなと仲良くなれた。
(小3算数)



みんなが納得できる別の方法もあるんじゃない？
(小6道徳)

静岡県教職員組合立教育研究所
国際連帯と平和研究委員会
(2014～2015 年度)

目次

子どもたちの中に平和的問題解決能力を（共同研究者：伊藤恭彦）	1
--------------------------------	---

【所員の教育実践】

〈小学校〉

1年 学級活動	ドッジボールから「戦争」について考える	3
	湖西市立岡崎小学校 尾崎 紀佳	
1年 学級活動	「みんなで仲良く決めよう」～七夕祭りを計画しよう	7
	湖西市立岡崎小学校 鈴木 伊織	
2年 道徳	よいことと悪いことを正しく判断して行動する	11
	焼津市立大井川南小学校 伊藤 秀男	
3年 算数科	平和的に問題を解決していく力を	15
	浜松市立上島小学校 中西 啓介	
4年 社会科	身近な外国について知ろう	19
	掛川市立千浜小学校 増田 賢	
4年 算数科	180° よりも大きな角の求め方を考える	23
	伊東市立大池小学校 嶋田 成幸	
5年 道徳	「約束」か「夢」か 相手の立場になって考える	27
	静岡市立清水三保小学校 稲葉 研二	
5年 言語科 [読解の時間]	世界に目を向けてみよう	31
	沼津市立香貫小学校 清水亜矢子	
6年 社会科	戦争と人々の暮らしについて考える	35
	浜松市立有玉小学校 倉田 智幸	
6年 道徳	誰に対しても公正・公平に接しよう『お別れサッカー大会』	39
	牧之原市立細江小学校 野村 智子	
6年 道徳	自分らしさ	43
	熱海市立熱海第二小学校 中田健太郎	

〈中学校〉

2年 道徳	平和とは何かということについて考える	47
	富士市立富士南中学校 齊藤 秀典	

【組合員のみなさんへ】～平和教育実践募集～

広めよう、つなげよう、みんなで草の根の平和教育実践を	52
----------------------------	----

子どもたちの中に平和的問題解決能力を



伊 藤 恭 彦（共同研究者 名古屋市立大学）

2015 年、日本の「安全保障政策」は大きく転換しました。集団的自衛権の行使を可能とする法律改正が国会で決定したのです。日本国憲法が制定された当時の政府首脳は、憲法 9 条が「自衛のためであっても戦争はできない」規定だと述べていました。その後、9 条のもとでも個別的自衛権は行使できるとの憲法解釈に変更されました。この解釈が長く政府の公式見解でありましたが、それを 2015 年に大きく転換したのです。国会での議論などで政府は、行使可能になった集団的自衛権について、数々の抑制が効くとの主張を繰り返しました。しかし、集団的自衛権は、論理的には日本が他国から直接攻撃を受けていないにもかかわらず、行使できる「自衛」のための措置（軍事行動）であることを忘れてはならないと思います。

日本が集団的自衛権を行使できるように憲法解釈を変えた背景には、21 世紀になって大きく変貌した国際政治があります。中華人民共和国をはじめとした新興国が、経済力のみならず、巨大な軍事力を背景に「領土政治」を展開し始めたことや、大規模な国際テロ組織による「領土」占有と無差別テロの拡大などが、現代の複雑化した国際政治を象徴しています。こうした国際政治の変貌を目の当たりにした時、大人も子ども「私たちの領土を守れ」とか「報復やむなし」とかいった気持ちになりがちです。そして、それが私たちの安全を守るためには武力行使も必要だという感覚につながっていくかもしれません。集団的自衛権容認への転換が、国民の大きな反対の声にもかかわらず、政権によって強行された背景には、このような国民の不安や危機意識があるとも言えます。逆にこのような国民の不安や危機感に、日本のいわゆる平和勢力が十分に対応できていないからこそ、政権による強引な決定がまかり通ったのかもしれません。私たちは平和について、戦後の平和についての考え方を継承しながらも、新しい発想をもたなくてはなりません。そしてその発想を、次世代を担う子どもたちに確実に伝えていかななくてはならないと考えます。

静岡県教職員組合立教育研究所の「国際連帯と平和研究委員会」では、20 年以上にわたって新しい平和教育について模索し、研究と実践を積み重ねてきました。私たちの共通の認識は、人間社会から争いごとや対立はなくなれないとの前提にたち、争いや対立を戦争や暴力に訴えずに解決する力を子どもたちに育むことが平和教育の最大の課題であるというものであります。戦争の悲惨さを伝えることは、私たちが考える平和教育の重要な構成要素ではありますが、一つの構成要素にしすぎません。むしろ、いろいろな教科や学級活動など、学校と教室のさまざまな場面で、問題を平和的に解決する力を養うことができると考えてきました。私たちの平和教育は「いつでも、どこでも、誰でも」実践できるものなのです。

子どもたち一人一人が平和のうちに問題を解決できる力をもつことが、戦争や暴力に頼らずに日本と世界が直面している困難な問題を解決することにつながるはずです。その意味で平和的問題解決能力は平和構築力につながる力であるとも言えます。暴力や戦争に訴えることなく、複雑化した国際社会の対立や問題を解決していく力をもつことは、21世紀に生きる全ての人間の課題だと言っていると思います。そうした課題を「国際連帯と平和研究委員会」は正面に据えて研究と実践をすすめています。特にここ数年間は、「地球的問題群」を子どもたちと考える授業実践にとりくんできました。「地球的問題群」とは、環境問題、貧困問題、大量破壊兵器の蓄積、紛争など、解決に失敗するならば人類の存続は難しくなるが、一国だけでは解決できない問題のことです。「地球的問題群」を取り上げてきたのには3つの理由があります。第一は、それらが私たちの豊かな生活と密接につながっている深刻な問題だからです。第二は、この問題群がグローバルな対立の原因や紛争の土壌になっており、その解決抜きには世界の平和が構築できないからです。そして第三は、地球的問題群の学習を通して、「相手の立場になって考える」という平和的問題解決能力の中で最も基礎的で重要な力が育めると考えたからです。

今回の報告集では、地球的問題群の学習だけにとらわれることなく、「相手の立場になって考える」力やものごとを多面的に捉える力を育てる授業実践を掲載しています。所員の皆さんは悩みながらも、素晴らしい授業を実践してくださったと思います。まだまだ課題が山積みの授業もあるかもしれません。しかし、この報告書に載せられている実践は、どれも新しい平和教育を実践していくための多くのヒントに満ちあふれているはずです。「この実践はおもしろそうだから、やってみよう。」とか「子どもたちと平和を考えるって、どういうことだろう。」とかいった形で、平和教育の実践や平和教育への関心が少しでも広がることを期待しています。

「二度と教え子を戦場に送らない」というのが戦後の平和教育の出発点でした。集団的自衛権行使を容認した安全保障体制が構築され、私たちの教え子が再び戦場に行くことになるかもしれません。また、私たちや子どもたちが戦争に巻き込まれるかもしれません。現在はこうした危機的な状況へ突き進んでいるように思えます。しかし、こうした状況だからこそ、子どもたちの目線を大切にしながら着実な平和教育の実践が必要です。戦争と暴力に抗する力と同時に、平和構築をする力を何としても子どもたちの中に育てなくてはなりません。この報告書が契機となり、平和教育への関心と実践が静岡県下で拡大していくことを心から願っています。

ドッジボールから「戦争」について考える

国会で「集団的自衛権」が議論されている中、共同研究者から詳しく集団的自衛権とは何かを説明していただきました。その中で「戦争」を連想させる言葉もあり、「もしかしたら…」と不安に感じました。こうした中でも世界のどこかでは、紛争があるのも事実です。そこで、子どもたちが将来的に「戦争」や「紛争」について自分なりの考えをもてるようにさせたいと思い、そのきっかけとして学校生活の中で起こりうる「けんか」や「争い事」を取り上げ、その要因と解決するための手だてを多面的に捉え、見つけさせるために、この機会をもちました。

【授業の具体】

学級活動学習指導案

指導者 尾崎 紀佳（湖西市立岡崎小学校）

1 題材 ドッジボールから「戦争」について考える

2 本時の指導

(1) 本時のねらい けんかの要因やその解決するための手立てを、話し合いの中から見つけ出し、今後の学校生活に役立てる力を育てる。

(2) 展開

段階	指導内容	予想される児童の活動（○）	留意点（・） 評価
導入	1 今までにけんかをしたことがあるか、確認する。	○お兄ちゃんとゲームのことでけんかしたよ。 ○友だちとブランコの順番のことでけんかしたよ。	・けんかが日常的、身近にあり、誰しも経験していることを確認させる。
展開	けんかをしたら、どうしたらいいか考えよう。		
	2 けんかだと思ふのは、どんなときか考える。	○たたいてしまったり、たたかれてしまったりしたとき、けんかだと思います。 ○悪口を言われたら、けんかだと思う。	・暴力をふるうことだけでなく、悪口だけでもけんかであることを確認する。
	3 何をしたら仲直りできたか、発表する。	○お母さんに怒られて、二人とも謝った。 ○「ごめんなさい。」と言って仲直りしたよ。 ○泣いたら、相手が謝ってくれたよ。	・仲直りすることとはどんなことを確認し、そこに至るための手段を発表させる。 ・「謝る」以外の手立てが発表された場合は、詳しく説明させる。
	4 紙芝居の話を聞いて、けんかについて考える。		



終末	5 どうしたら1組と2組が仲直りできるか話し合う。	○どちらの組も「ごめんなさい。」と言えればいいよ。 ○悪い人が、正直に言って、謝ったほうがいい。 ○先生を呼んで話を聞いてもらってから、謝る。	• けんかが個人対個人だけでなく、集団対集団であることを確認する。 • 「ごめんなさい。」以外の手立ても考えさせる。
	6 けんかを避けるためにはどうすればよかったか話し合う。	○当たったら、きちんと外野にいけばよかった。 ○悪口を言わなければいい。 ○一度試合をとめて、みんなで話し合えばよかった。	• 様々な手立てを考えられるように、個々に支援する。
	けんかをしないためには、みんなで話し合ったり、謝ったりするといいんだ。		けんかをしてしまったとき、どうすればよいか。けんかを防ぐにはどうすればよいかを考えることができる。 (学習カード、発表)
	7 「戦争」について説明を聞く。	○大人でもこわいけんかをしているんだ。 ○どうして、戦争をしているんだろう。 ○爆弾で人が死んじゃうんだ。とってもこわい。	• 1年生に理解できる内容で戦争について説明する。
	8 「戦争」をどう思うか考える。	○大人同士ちゃんと謝ればいいのか。 ○戦争をやめてほしい。 ○絶対に戦争をしたくない。	• 戦争よりもけんかのことが心に残るように、最後に助言する。

3 授業後の反省と評価

児童の多くは、けんかはよくない、人を叩いたり、悪口を言ったりしてはいけない等の考えをもつことができた。けんかをしてしまった時は、きちんと謝ると考える児童が大半であったが、先生を呼ぶなどして第三者に仲介に入ってもらって仲直りするという考えをもつ児童もいた。また、未然に防ぐための手立てにおいては、みんなで話し合ったり、約束をきちんと守ったりするという考えが多かった。しかし、「けんかになりそうになったら、その場から逃げる。」といった、こちらが予想もしない考えも出てきた。けんかについて多面的に捉えることができた。

戦争については、戦争の恐怖を実感することまではいたらなかったが、戦争がどんなものであるか再認識することができた。けんかから戦争へと考えを広げることができたとは言えないが、「争い事はよくない。」「争い事が起こった時は、謝るとよい。」「争い事が起こらないようにすることも大切である。」等の考えをもつきっかけにはなったのではないかと考えている。

将来に向け、平和や戦争を考えるちょっとした糸口になってくれたらと願っている。

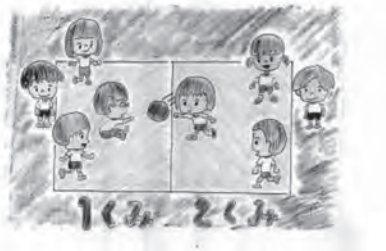
4 資料等

(1) 紙芝居



紙芝居①

- ここは、ある小学校の昼休みの様子です。
- 運動場では、1年1組の子どもたちと、1年2組の子どもたちの何人かが、仲良くドッジボールをして遊んでいます。



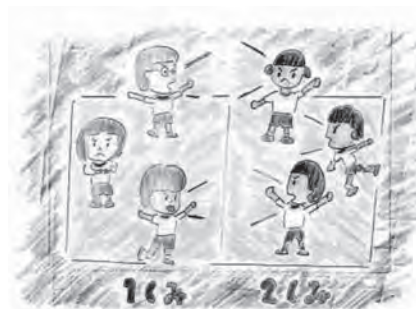
紙芝居②

- あっ1組のAくんが投げたボールが、2組のBさんに当たったようにみえますね。



紙芝居③

- しかし、Bさんは、「あたっていないよ。」と言って、外野に行こうとしません。
その様子を見て、Aくんが「Bさん、当たったじゃないか。」
「外野に行ってよ。」と大きな声で言っています。



紙芝居④

- あらあら、周りのみんなも加わってきました。
「Bさん、当たっているから出てよ。」
「外野にいきなよ。」
「Bさん、ずるいよ。」
と1組のみんなから声が出ています。
2組からは、
「Bさんは、当たっていないよ。見ていたもん。」
「Bさん、セーフだから、外野に行かなくてもいいよ。」
「1組のみんな、言い過ぎだよ。」
との声が出ています。
この言い争いは、どんどん大きくなっていき、ついには、
1組と2組のけんかが始まってしまいました。



紙芝居⑤

- 1部の男の子たちは、殴り合ったり、蹴り合ったりして、さらにはげしさを増してきました。



紙芝居⑥

- とここで、
「キーン コーン カーン コーン。」
とチャイムの音が鳴りました。
1組と2組の子どもたちは、けんかの最中でしたが、そのまま教室にもどりました。

さて、この後どうなったのでしょうか。

実践発表後の研究協議

- 1組は、「当たった。」、2組は、「当たっていない。」という双方の主張は平行線だと思いますが、子どもたちに、「1組と2組は仲直りができるかな。」「どうすれば良かったかな。」と投げかけるのは、すごく面白いなと思いました。
- お互いの主張がぶつかったときに、「どうしていこう?」「話し合いで何とか解決しようよ。」「相手の言い分をしっかりと聞いて考えよう。」と、子どもたちが、お互いの主張だけで終わるのではなく、他の解決方法を考えようとするのは、平和教育として十分だと思います。みんなが納得する解決方法を見つけることだけに価値を置くのではなく、こういうことを考えさせることに価値があるように思います。
- お互いの主張の場面を、ロールプレイみたいに子どもたちの前でやってみるとどうでしょうか。そうすると、紙面から抜け出て、子どもたちの中から違った反応があるように思います。
- 授業の終末の段階で、先生の説明があり、その内容が戦争に関するものだったわけですが、ここは無理にそっちへもっていかなくてもいいのかなと思います。今日の場面は実際によく学級では起こることなので、「どうしたら仲直りができるか。」「けんかや言い争いが起きたらどうしていくか。」を十分話し合ってもよかったのではないかな。
- 子どもの言い争いやけんかは、日常的に些細なことで起きるわけです。これを教育の力で無くしてしまうというのは難しいだろうし、そのこと自体がいいか悪いかは判断しにくいところだと思います。ぶつかり合うことは、人生経験上必要なことでもあります。大事なことは、「どうして争いが起こってしまったのか。」「もっと上手なやり方はなかったのか。」ということを考えることだと思います。そして、争いが起こったとき平和的に解決するということが大事で、これを考えさせていくことが平和教育の大きな視点かなと思います。

「みんなで仲良く決めよう」～七夕祭りを計画しよう

研究委員会において、平和的に問題を解決し、平和を構築する力をもった子どもを育てるためにどのような実践を行ったらよいのかということが課題として提起されました。私が担当する小学校 1 年生の発達段階では「自分の思い」（個人の平和）を優先する場面が顕著にみられます。それは生活体験、多面的なものの見方、相手意識、何が正しいかを判断する力等の不足が原因であると予想しました。

そこで、なかなか決まらない意見を学級みんなの思い（集団の平和）にするためにはどうしたらよいかを問いかけることで、問題を平和的思考と行動によって解決する力の向上をめざしたいと思います。

【授業の具体】

学級活動学習指導案

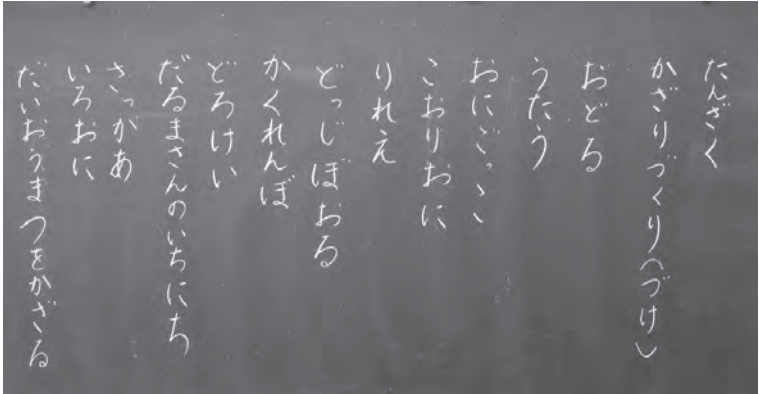
指導者 鈴木 伊織（湖西市立岡崎小学校）

- 1 単元名 「みんなで仲良く決めよう」～七夕祭りを計画しよう
- 2 単元目標 「七夕祭り」というお楽しみ会の計画を通して、なかなか決まらない意見を話し合いによってまとめることで「問題を平和的思考と行動によって解決する力」の向上を目指す。
- 3 本時の指導（1／1）
 - (1) 本時の目標
七夕祭りにどのようなことをするのかを話し合い、計画を立てることができる。
 - (2) 指導過程

学 習 内 容 ○発問 ・児童の反応	教師の動き及び留意点
【事前の活動（当日の朝の時間や前日の昼休みなど）】 ○「七夕」が近づいてきているので祭りの準備をしたいけれど、何がしたいですか。 ・（活動場所や活動など、たくさんの意見が出てなかなか決まらない経験をする。） ・自分の意見で行えるといいな。	・どんどん意見を出させる。 ・黒板に書き記しておくことで、本時の準備へとつなげる。 ・活動場所や活動が決まらない問題を提起して本時を提案する。 ・アンケート①を実施する。
○「七夕祭りの計画」がなかなか決まらなかったけど、どうしてかな。 ・時間が足りなかった。 ・意見が出過ぎて決まらない。 ・みんな考えがばらばらだから決まらない。	・事前に記録した板書を本時の前に再現しておく（別紙 板書計画）。 ・「七夕祭り」の目的が「みんなで楽しむこと」であることを伝える。
○どうやってきめたら「みんなで楽しむこと」ができるかな。 ・みんなの意見をまとめればいいよ。 ・手を挙げたり、じゃんけんをしたりして決めればいいよ。 ・みんなで決めた方法で決めていこう。	・その意見のよさ（理由）を紹介することも決定につながることを伝える。 ・反対意見等も出させ、できる限り、全員が納得するよう留意する。 ・自分の意見が決まらなかった子の気持ちも聞くことで、いろいろな思いの子が学級にいることを全員で共有する。
○それでは、前回出た意見をもとに決めていきましょう。 ・自分の意見にならなかったけれど、みんなで決めた方法だから仕方ないな。 ・みんなの考えを聞いていたら、それも楽しそうだって思えたよ。 ・今回はできないけど、次にできるかもしれないからまた言ってみよう。 ○決まらなかった意見はどうしたらいいかな。 ・なしでいいよ。 ・ちがうときにまたやろうよ。	・この日だけの活動とせず、学級遊び（休み時間）に行ってもよいという提案を賞揚したり提起したりする。
○今日の活動を通して、感じたことを発表しよう。 ・みんなで決めた方法で決めるとスッキリする。 ・七夕の準備ができてよかった。	・アンケート②を実施する。

4 授業後の反省と評価

授業の実際

学 習 内 容 ○発問 ・児童の反応	教師の感想
【事前の活動（当日の朝の時間や前日の昼休みなど）】 ○「七夕」が近づいてきているので祭りの準備をしたいけれど、何がしたいですか。 ※資料1 	・どんどん意見を出させる。 →はじめの発問に対して「お楽しみ会」といった視点がなかったため、なかなか意見が出なかった。 ・活動場所や活動が決まらない問題を提起して本時を提案する。 →学級全体の問題として提起できた。 ・黒板に書き記しておくことで、本時の準備へとつなげる。 →本時につなげることができた。 ・アンケート①を実施。
○「七夕祭りの計画」がなかなか決まらなかったけど、どうしてか。 ・意見が出過ぎて決まらない。 ・みんな考えがばらばらだから決まらない。 ○どうやってきめたら「みんなで楽しむこと」ができるかな。 ・手を挙げて決めればいいです。（二番目に多く出た意見で、決め方としてみんなが納得していた。） ・じゃんけんをして決めればいいです。（意見として一番多かったが、時間がかかるという意見が出てみんな納得した。） ・相談すればいいと思います。（反響大→「その活動のよさの紹介」） ○それでは、前回出た意見をもとに決めていきましょう。 ・考えを聞いていたら、それも楽しそうだって思いました。 ・みんなで決めていくから仕方ないって思いました。 ○決まらなかった意見はどうしたらいいかな。 ・昼休みにまたやればいいです。（ほとんどの子が頷いていた） ○今日の活動を通して、感じたことを発表しよう。 ・思ったことは言っていくといい。 ・みんなで楽しく遊びたいな。 ・早くその日になってほしい。 ・七夕祭りが楽しみ。 ・みんなで決めたからよかった。 ・決まってよかった。	・「七夕祭り」の目的が「みんなで楽しむこと」であることを伝える。 →個人の意見く集団の意見という柱ができたことで、活動内容の議決が円滑に進んだ。 ・その意見（活動）のよさ（理由）を紹介することも決定につながることを伝える（意見の変動を認める）。 ・反対意見等も出させ、できる限り、全員が納得するよう留意する。 →反対意見は出なかった。 ・自分の意見が決まらなかった子の気持ちも聞くことで、いろいろな思いの子が学級にいることを全員で共有する。 ↓下記の考えに移行した。 休み時間に行おうという意見が出た。 ・アンケート②を実施。

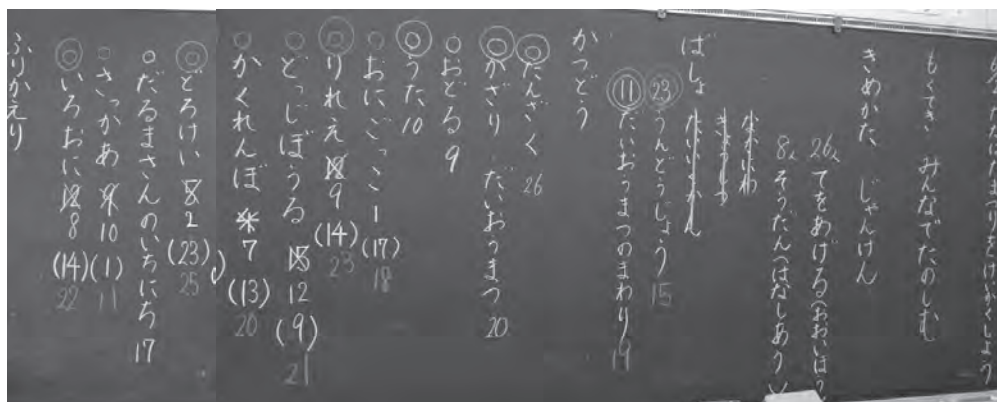
今回、学級活動（話し合い活動）の中で、「平和的に問題を解決し、平和を構築する力をもった子どもたちを育てる」ために、「七夕祭りの計画」の実践を行いました。予想通り、事前の活動では、たくさん出た意見を見て、「どれができるのか。」「自分の考えたものをやりたい。」というつぶやきも聞こえてきました。※資料1

このような事前準備を経て、本時では意欲的に活動にとりくもうとする姿が見られました。そこで本時では、「みんなで楽しむ」という目的を提示して、①決め方、②場所、③活動を全体で確認しました。

決め方については今回「手を挙げる」に決まりました。「じゃんけん」という意見が一番多く出たものの、「時間がかかってしまう」という意見が出たことによって多くの子が納得して、「手を挙げる」「相談」の二つに絞られました。「相談」を選択した児童も「時間がかかる。」ということ話をしていたので最終的な決め方として「手を挙げる」方法で決めることとなりました。また、意見として挙げられた活動のよさについて、提案者より紹介する活動を取り入れることで「考えを変えてもよいのだ。」という雰囲気を作りました。

しかし、たくさんの活動が挙げられていたので、授業者の指示で希望の活動に対して手を挙げる回数を二回にしました。また、「どちらでもよい」という問いかけを加えて（ ）に人数を記し、合計人数を赤で提示しました。こうしたことで、より多くの「自分の考え」が含まれていることを示しました。※資料2

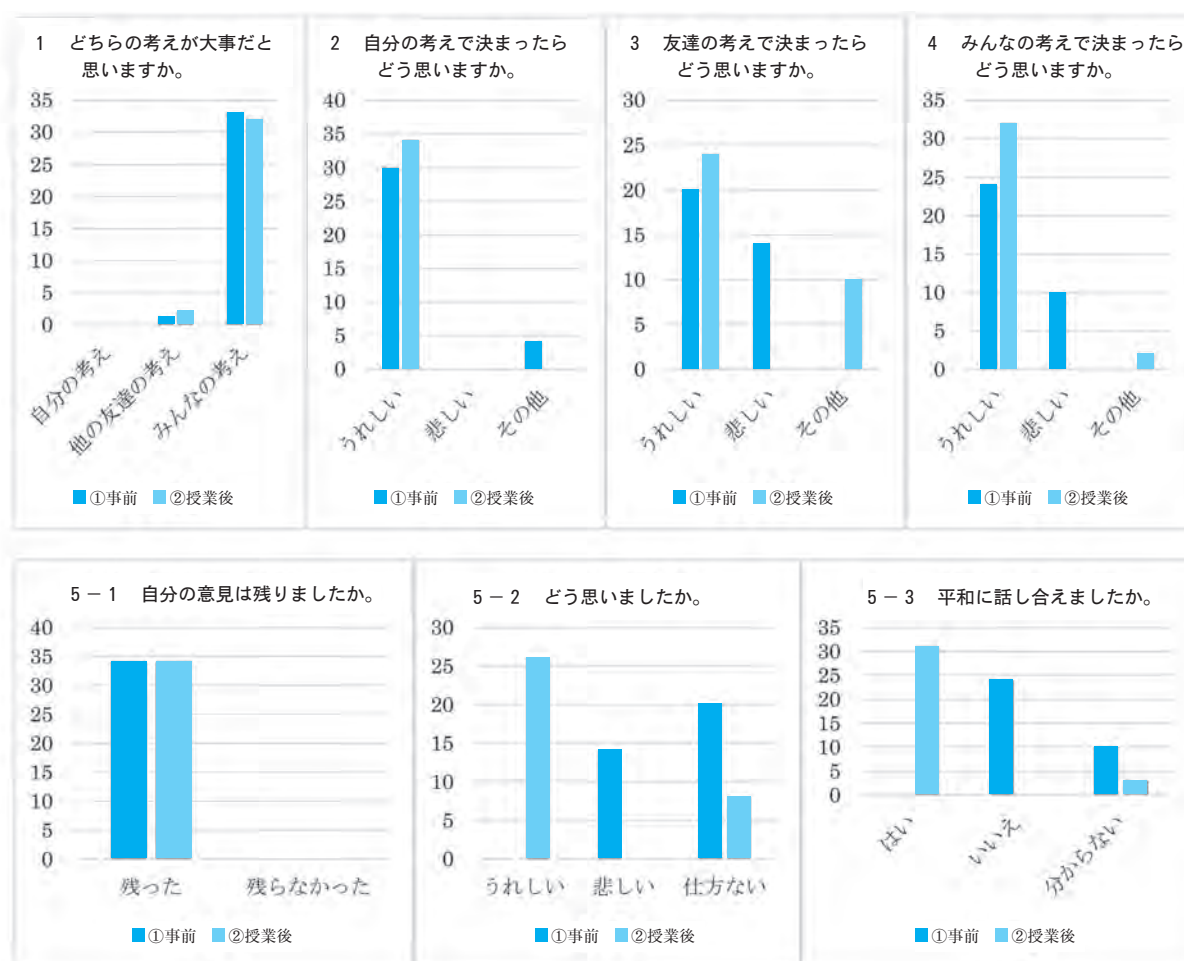
※資料 2 本時における板書と議決の記録



アンケートでは、①（事前準備の段階）と②（本時を終えて）の2回実施して意識の変化を調べました。アンケート結果の比較を見ると肯定的な意見が増えたことが分かります。※資料3

しかし、次のような課題も残りました。1年生の発達段階で「平和とは何か。」という視点についてはあいまいな状態であったことがアンケート5-3「わからない」という回答からもわかります。また、決め方についても話し合いのみでは決定できなかったため、多数決という選択をしています。「みんなが納得のいく形」という点において一つの方法ではありますが、話し合いのみで決定していく力も今後身に付けていかななくてはなりません。そのために、平和という視点に沿った実践を継続していくことが必要だと感じました。

※資料 3 アンケートの集計



5 資料等
(1) 板書計画

日付 たなばたまつりを けいかくし
よう。
もくてき みんなで たのしむこと。
きめかた *出てきた意見を書き、決定
したものゝを赤などで囲む。
ばしょ きょうしつ たいいくかん
うんどうじょう なかにわ
かつどう うた
はんかちおとし
おにごっこ
どろけい
とうそうちゅう
だるまさんがころんだ
じゃんけんれっしゃ
どっじぼおる
ころがしどっじ
なんでもばすけっと
いすとりげえむ

ふりかえり *出た考えを簡略化して記
録

(2) 実施したアンケートの質問事項（①と②は同じ質問事項）

- 1 どちらのかんがえがだいじだとおもいますか。ひとつえらんで○でかこみましょう。
じぶんのかんがえ ほかのともだちのかんがえ みんなのかんがえ
- 2 じぶんのかんがえできたらどうおもいますか。
うれしい かなしい そのほか()
- 3 ほかのともだちのかんがえできたらどうおもいますか。
うれしい かなしい そのほか()
- 4 みんなのかんがえできたらどうおもいますか。
うれしい かなしい そのほか()
- 5 ふりかえり
・ じぶんのいけんはのこりましたか。 のこった のこらなかった
・ どうおもいましたか。 うれしい かなしい しかたない
・ へいわにはなしあえましたか。 はい いいえ

(3) 本研究の実践協力（小学校1年生対象）

・湖西市立新居小学校 4 学級 ・湖西市立鷺津小学校 1 学級 ・湖西市立東小学校 1 学級

実践発表後の研究協議

- ・七夕祭りの内容が自分の考えではなく友達やみんなの考えで決まったことに対し、(悲しい)と思った子どもたちが、(仕方ない)と思えるようになったということは、平和的に物事を解決する力が高まったと判断していいのか、大変難しいところだと思います。
平和教育、平和構築力を子どもたちに付けさせたいということを考えたとき、自分と違う意見にも耳を傾け、話し合いで問題を解決し、最後はみんなで手を挙げてという多数決という方法もとるんだという民主主義的なルールを学ぶことは、平和教育においてとても大切なことだと思います。
- ・2学期最初に係決めをする学級活動の授業をしたとき、1年生の子どもから、「みんなで、どういう係が必要か、話し合って決めたい。」という意見が出たという報告がありました。これは、鈴木先生のこの授業が生きているのではないかと感じました。伊藤先生（共同研究者）から、平和教育のコアの一つに、「話し合い」があるのご指導をいただきましたが、鈴木先生の学級の子どもたちには、その能力や態度が育ちつつあるのではないかと思います。
- ・先生の実践は、研究協力校として市内の3小学校が授業実践にとりくんでくれたとありますが、いろいろな先生方の実践により、その授業が検証され、よりよい実践として高まっていくことが期待できます。

よいことと悪いことを正しく判断して行動する

低学年で「ものごとを多面的に捉え、平和的に解決する力を育てる授業実践」とはどのような授業なのか考えました。道徳の内容 1-(3)「よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。」であれば、友だちとの人間関係の中でうまくいかないことや嫌なことがあっても「平和的に解決」したほうがいいと感じるであろう、と考えました。

子どもの日常生活にありがちな問題を題材として、「平和的に解決する」ことについて考えてみたいと思います。

【授業の具体】

道徳学習指導案

指導者 伊藤 秀男（焼津市立大井川南小学校）

1 主題名 正しい？正しくない？

2 資料名 「くつばこの前で」 出典『心ゆたかに 2 年』（静岡教育出版社）

3 本時の指導

(1) 本時の目標

けんかした友だちの靴を隠そうとしたところ、別の友だちに見つかり、黙って考えている主人公の気持ちを考えることを通して、よいことと悪いことを正しく判断し、してはならないことをしようとする心を抑えて、よいと思うことをすすんで行おうとする心情を育てる。

(2) 指導過程

段階	教師の働きかけと予想される子どもの活動	留意点
	1 価値への方向付けをする。 友だちとけんかをしたことがありますか。その時どんなことを考えましたか。 • すごく嫌なことを言われて、「もう遊ばない。」と思ったよ。 • たたき合いをして、「謝らない。」と思ったよ。 • 早く仲直りしたいなあと思ったよ。	• けんかをしたことに対するよい悪いには言及せず、ちょっとしたことで仲たがいにしたり腹が立ったりすることが多くあることを共有する。
	2 資料「くつばこの前で」を読んで、主人公のおかれた状況を把握する。 かおりさんに声をかけられたよしみさんはどんなことを思ったのでしょうか。 • 見つかった。どうしよう。 • 何て言おう。 • かおりさんが誰かに言っちゃうかな。	• 主人公が、友だちに見つかってびっくりしている気持ちと、あわてている気持ちが入り混じっていることを確認する。
	3 靴を持ったまま黙っている主人公の気持ちを探る。 靴を持ったまま黙っているよしみさんは、どんなことを考えているのでしょうか。 • なっちゃんがいじわるだから、やり返すだけなんだ。 • このまま隠したら、かおりさんはなっちゃんに教えてしまう。そうしたら、なっちゃんはもっと怒るだろうな。	• 主人公が「いけないことだからやめよう（正価値）」と「自分を正当化する気持ち（反価値）」の両方で葛藤していることを、類型化する。

- ・ なっちゃんを困らせたいけど、靴がなかったら本当に泣いちゃうかな。泣いたらかわいそうだな。
- ・ 靴を隠すのは、本当はやってはいけないことなんだよなあ。

4 靴を隠すのをやめた主人公の気持ちに触れる。

なつ子さんの靴を、そっと靴箱の中に置いたよしみさんは、どんな気持ちだったのでしょうか。

- ・ 自分も悪くなるようなことはしないほうがいいな。
- ・ かおりさんが止めてくれてよかった。

5 今までの自分を振り返る。

しようと思ったけれど、「いけない」と思ってやめたことはありますか。

- ・ 帰りに友だちの家に寄って遊びたかったけど、寄り道はいけなから家に帰ってから遊びに行った。
- ・ 外で遊びたかったけど、運動場が乾いていなくて足跡がつくから、教室で遊んだ。

6 教師の説話を聞く。

「桜の木」という話を読みます。聞きましょう。

- ・ 腹が立った自分の気持ちを抑えて、してはならないことはしないと、しっかり考えることができた主人公の心の強さに触れる。

- ・ してはいけないことをやさしく忠告したかおりの接し方にも触れる。

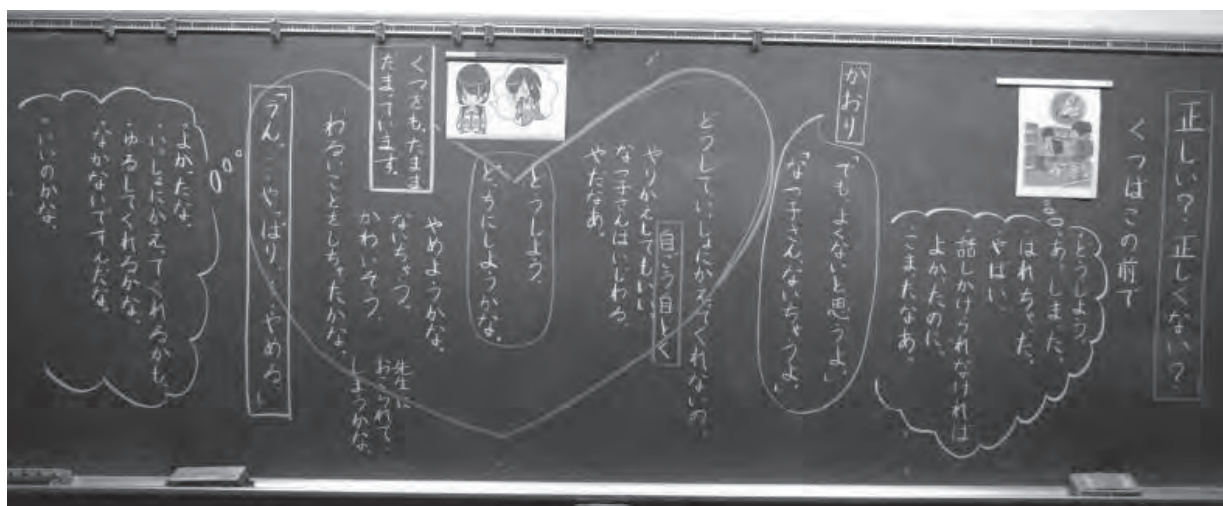
- ・ 学校の約束や、してはいけないことはたくさんあることを思い出させ、自分を振り返る。『わたしたちの道徳』P42,43 も参考にする。

(評価) してはいけないことをしようとする心を抑えることができた経験を振り返り、話をしようとしている。

4 授業の反省と評価

- ・ 「いけないことだからやらない (正価値)」は子どもたちに身に付けてほしい平和構築力の基礎・基盤である。
- ・ 気持ちを考えるだけでなく、靴かくし以外でどんな方法で解決したらいいのかを考えさせることが、「平和的に解決する力」を育てることにつながる。「つらい」「どうして」という気持ちを相手に伝える方が平和的解決になることもある。
- ・ 価値項目が違ってくるが、かおりさんの声のかけ方 (強く責めず、いけないことだと気づかせ、靴かくしを思いとどまらせる。) について考えるという授業展開でも、「平和的に解決する力」を育てることにつながるのではないか。

5 資料等





10 くつばいの 前まえで



32~37
ページ

かおり「何なにしてるの、よしみさん。」
よしみ「えっ、えっ。ちよっと、ね。」
かおり「それ、なつ子さんの くつだよ。どうして もってるの。」
よしみ「ちがうよ。何なんでもない。」
かおり「よしみさん、もしかして……。」
よしみ「なつちゃんに、『もう いっしょに 帰かえらない。』って 言いわれたの。」

かおり「そう。でも、よくないと 思おもうよ。」
よしみ「だって、なつちゃん、いじわるなんだもん。」
かおり「なつ子さん、ないちゃうよ。」
よしみ「うーん。でも……。」

——よしみさんは、くつを もったまま
だまっ ています。

かおり「ねえ、かわいそうだよ。」
よしみ「うん。……やっぱり、……やめる。」

——よしみさんは、なつ子さんの くつを
そっと くつばいの中なかに おきました。



資料『心ゆたかに 2年』（静岡教育出版社）

※この資料は、静岡教育出版社の許諾を得て転載しています。

しては ならない ことが あるよ



資料『わたしたちの道徳 低学年』（文部科学省）

※この資料は、文部科学省の許諾を得て転載しています。

実践発表後の研究協議

- ・私（授業者）としては、よしみさんのように、よくないことをやってしまいそうなときに考える子どもになってほしいとか、相手にいやな気持ちを持っていてもやってしまいそうになる前にお互いに話をするような子どもになってほしいなどの思いで授業を行いました。
- ・かおりさんは、平和の象徴のような気がします。「なつこさん、泣いちゃうよ。」とか「ねえ、かわいそうだよ。」というかおりさんは、よしみさんに、相手の立場に立って考えてということ諭しているような感じがします。ここを膨らませたら、「悪いことをやっちゃいけないよ。」だけでなく、どんなふうに接したらいいのかについても子どもたちは考えるのではないかと思います。
- ・「うそをついてはいけません。」「友達のことを隠してはいけません。」といったときに、「なぜ、この子はうそをつくんだろう。」「なぜ、この子は友達のことを隠すんだろう。」という思考をたくさん経験させることが必要ではないかと感じています。
- ・良くないことをしようとした子どもが、自分の辛さをわかってもらえたと思えるような接し方について考えることも大事だと思います。ただ、こういう扱いだと、ねらうところの価値は変わってくるかと思っています。今回の実践の善悪の判断という内容項目は、平和教育の範疇としては十分だと思います。それは、善悪の判断がぐちゃぐちゃでは、もめごとや争いが絶えないということが起こり得るからです。
- ・かおりさんに焦点を当て、こういう場合の友達への接し方を考えると、それは、私たちが研究している平和的解決のための態度を育てるということで、まさに平和教育と言えると思います。
- ・よしみさんのような行動をとりそうなことは、学級ではよく起こると思います。自分のクラスでも、黙ってやられたり、言われたりして、「嫌だ」と逃げてしまうとか、嫌なことをされてその思いをずっと引きずって、昼休みとかにいきなり殴ってしまうということがよく起こります。よしみさんに焦点を当てる形で、問題を平和的に解決する方法を考えてみるような授業をやってみたいと思いました。
- ・こういう問題は、2年生という年齢を考えてみても、きちんと教えてあげるとともに、もう一つは、「どうして?」「なぜ嘘をついてはいけないのか。」をしっかりと考えさせることも非常に大切だと思います。外から言われて守る、先生に怒られるから守るというのは、先生がいなければいい、先生に見つからなければいいとなってしまいます。先生がいようとまいと、「これはやってはいけないこと」の理由付けが善悪の判断の際にはとても大切だと思います。



5 発表する。 ○ グループごとに考えを発表しましょう。 質問や意見のある人は発表しましょう。 ・「0.1をもとにした」ところが僕たちと同じ考え方でした。 ・図があったのでわかりやすかったです。 ・どうして、小数を整数に直して計算してもいいんですか。 6 まとめる。 ○ それぞれのグループに共通している大切な考え方は何ですか。 ・0.1をもとにしていること。 ・整数に直して計算していること。 小数の引き算は、0.1をもとにして整数に直して計算すればよい。 7 練習問題をする。 ○ ほかの数字でも計算できるかどうか、練習問題で確かめてみよう。	・説明を順序よく、わかりやすく行うために、「算数で使いたい言葉」を配布し、使ったら青で印をつけさせる。 ・質問や意見が言えるようにするために、自分たちの考えと比べながら聞くようにする。 ・理解を深めるために、わからないことはどんなことでも聞くように助言する。 ・各グループの最も重要だと言う言葉に注目させることで、まとめにつながりやすくする。
--	--

4 授業後の反省と評価

- 相手のことを理解するためにはまず、自分の考えを表現できないといけなかった。そこで順序を表す言葉や、説明するときに便利な言葉をまとめた、「算数で使いたい言葉」を配布し、活用させた。すると、自分の意見を順序よく表現できるようになったり、相手に伝わりやすい表現方法を考えたりできるようになった。
- 「全員で協力する」という必要性をもたせるために、「全員が発表する」という約束を入れた。すると、学習に前向きにとりくむ児童が増え、わからないことを質問したり、理解が十分でない児童にすすんで説明したりすることができるようになった。
- 単元当初は、自分の意見ばかりを主張する児童が多く、意見がまとまらないことがあった。しかし、グループでの話し合いの時間を十分確保し、話し合いを繰り返し行うにつれて、お互いが意見を出し合いながら考えをまとめていくことができるようになった。
- 学習後にとったアンケートでは、算数の話し合い活動が楽しかったと答える子どもが多く、「グループのみんなと仲良くなれた。」と言っていた子どももいた。また、係決めなど様々な場面で、じゃんけんではなく、話し合いを選択し、譲り合いながら決めていく姿が見られるようになった。

以上のような「相手を理解し、意識した算数科の実践」を行うことで、自分の主張を通すだけでなく、相手の考えを尊重したり、自分の考えとすりあわせることのよさを実感したりすることができるようになってきた。

これは、算数科の学習だけでなく、他教科や領域の中でも実践していくことで、より平和的な問題解決スキルを得ることができるのではないかと感じた。

今後も、「相手のことを考える」「相手の立場に立って考える」手だてを工夫しながらあらゆる教科領域において実践を積んでいきたい。

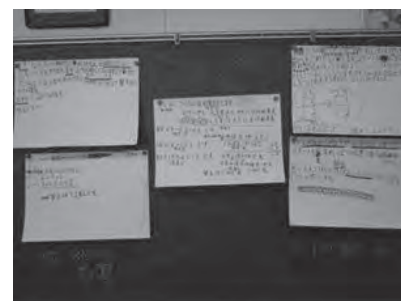
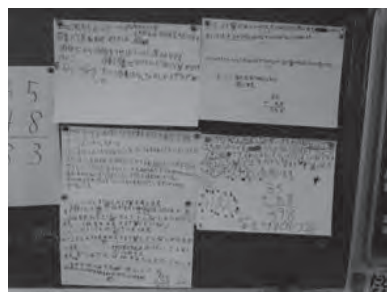
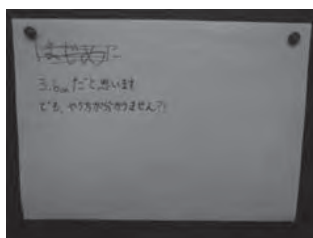
5 資料等



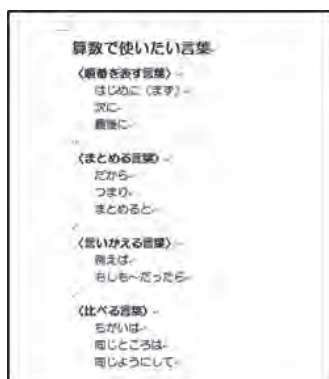
グループ全員での話し合い



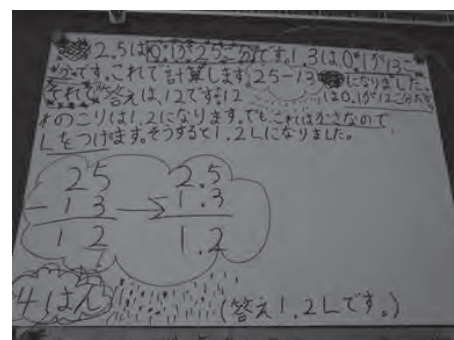
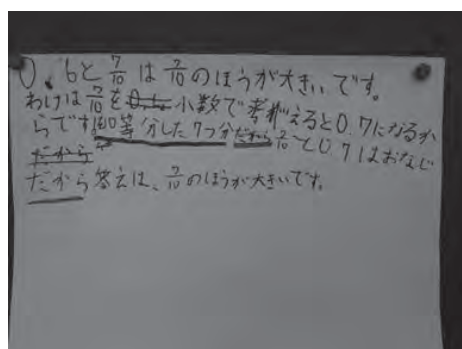
グループ全員での発表



単元当初との比較



算数で使いたい言葉



画用紙と色マジックの活用

実践発表後の研究協議

- 中西先生の実践は、題材や内容が平和や国際連帯に直接つながるものではありませんが、友だちと相談したり教え合ったりする中で、（どうしたらみんなにわかってもらえるように説明できるかな。）と考えたり、「こうしたらできそうだよね。」と解決方法を出し合ったりする「相手を意識した学び」があるように思いました。子どもたちは、みんなが納得できるように説明をする力や協働する中で折り合いをつける力などの平和的な解決の仕方を学んでいると思いました。
- 外国籍の子が多い学級にもかかわらず、言葉が理解できず授業に参加できない外国籍の子どもたちをうまく授業に巻き込んでいると思います。外国籍の子で言葉が伝わらなかったり思いが受け入れてもらえなかったりすると、高学年になってトラブルが増えてきます。中西先生の実践のように、授業の中で友だちと頭を寄せ合って一緒に考えるという経験を積み重ねることで、外国籍の子にとっては受け入れられている安心感につながっていると思います。言葉を獲得させることに必死になるよりも、授業の中でみんなと一緒に解決したという経験を積ませることが大切だと感じました。
- 単元を通してグループで考えさせる活動を繰り返すというのがいいと思いました。1回の授業では身に付かないけれど、何時間も繰り返すことで、グループのみんなで考えるということや外国籍の子も含めた全員で解決するということが定着したと思います。どの子にも同じように接し、どの子の話も同じように聞くという雰囲気が授業の中で積み上げられ、授業を通して「グループのみんなと仲良くなれた。」と子どもたちが実感していることが素晴らしいと思います。
- 以前は、学級会で何かを決める際に外国籍の子の意見を聞かず多数決で決めてしまっていたのですが、この単元の後には、外国籍の子に「何やりたい？」と聞いて意見を反映させたり、「話し合って決めてもいいですか？」と言ったりする子もでてきて、クラスのまとまりを感じられるようになりました。
- 以前よりも自信をもって発表するようになったと思います。外国籍の子もグループ発表の中で少しですが役割があり、表情からも満足している様子が感じ取れました。また、話し手以上に聞き手が育ったと思います。考えを言っていない子に「何？何かある？」と優しく声をかけてあげられるようになったことに子どもたちの成長を実感しています。
- まとめの段階で、どのグループの考えがいいかを選ぶのではなく、「算数で使いたい言葉」は赤線、考え方の中心となる大事な部分に青線をそれぞれのグループに引かせて、共通した言葉をまとめていったのがいいと思います。「何等分したいくつつ分」「0.1のいくつつ分」というポイントとなる考えが押さえられますし、考えを見比べる中で、「あの考え方もいいな」とか「次、まねしてみよう」など、互いのよさを認め合いながら考え方の幅が広がっていくと思います。

身近な外国について知ろう

資源問題、環境問題など、世界規模で解決しなければならない問題をどのように良い方向に導いていくか。子どもたちにそのような力を付けていかなければならない、ということが研究委員会の中で話題に上がりました。そこで、小学校 4 年生の社会科で何ができるかを考えました。3・4 年生の学習内容の中で、外国について取り上げる単元があります。本校がある掛川市には、ブラジル人が多く住んでいます。自分たちの生活の中で身近な外国について、まずは「知る」ということをねらい、授業を考えました。

【授業の具体】

社会科学習指導案

指導者 増田 賢（掛川市立千浜小学校）

- 1 単元名 世界とつながるまちづくり
- 2 単元目標 掛川に住むブラジル人が多い理由を、両国の関わりの歴史や地域の特徴から捉えることができる。
- 3 指導課程（2 時間扱い）

	教師の働きかけと予想される子どもの活動	・留意点 ☆評価										
第1時	○掛川にはどれくらいの外国人が住んでいるのだろうか。 掛川市人口 11 万 7000 人 うち外国人 約 4000 人 ○どの国からの人が多いのだろうか。 <table><tr><td>ブラジル</td><td>2179 人</td></tr><tr><td>フィリピン</td><td>620 人</td></tr><tr><td>中国</td><td>573 人</td></tr><tr><td>ペルー</td><td>254 人</td></tr><tr><td>韓国・朝鮮</td><td>104 人</td></tr></table> (H24.3 掛川市市民課資料より) ○ブラジルの概要の確認 ・位置 ・国旗 ・言葉 ・有名なもの など なぜブラジルの人がこんなに多く掛川に住んでいるのだろうか。 【予想】 ・仕事の関係 ・掛川が住みやすいから ・掛川のほうが進んでいるから ・食べ物がいい（和食が人気）	ブラジル	2179 人	フィリピン	620 人	中国	573 人	ペルー	254 人	韓国・朝鮮	104 人	・子どもたちに予想させる。 ・市の統計を提示する。他の国に比べて、ブラジル人がとても多いことを確認する。 ・国旗のデザインの意味などに簡単に触れる。また、位置的にも日本から離れた場所であることを確認する。 ・学習問題について予想させ、次時につなげる。
ブラジル	2179 人											
フィリピン	620 人											
中国	573 人											
ペルー	254 人											
韓国・朝鮮	104 人											

	教師の働きかけと予想される子どもの活動	・留意点 ☆評価
第2時	なぜブラジルの人がこんなに多く掛川に住んでいるのだろうか。 ・前時の予想の発表 ○資料から答えを探してみよう。 日本とブラジルの交流の歴史 1908～ 日本からブラジルへ、多くの人が出稼ぎに行った。 多くの方はコーヒー農園で働いた。 日本に帰れずに、そのままブラジルに住む人たちもいた。(→日系人) 1990～ 法改正で、日系1世の子供や孫が、日本で働くことができるようになった。 ↓ ブラジルから、日本に出稼ぎに来る人が増えた。 (日本のほうが、給料が良かった) ○日本の中でも、なぜ掛川に多く住んでいるのだろうか。 ・この地域に、自動車に関連した工場が多い。 ・多くのブラジル人が、そのような工場で働いている。 ○社会日記(まとめ)を書こう。 ・なぜブラジルの人が掛川に多いのかわかった。 ・最初は日本人がブラジルに出稼ぎに行ったんだ。 ・日本とブラジルの間には100年以上も交流の歴史があったんだ。	・自分たちの予想を発表した後で、資料を読む。(ジュニアエラ 2014 年 7 月号) ・100 年ほど前から、ブラジルとのつながりがあり、今に至っていることを確認する。 ☆掛川に住むブラジル人が多い理由を、歴史や地域の特徴から捉えることができたか。(発表、ノート)

4 授業後の反省と評価

成果

- ・地域にブラジル人が多いことを児童は知っているが、そこからさらに一歩踏みこんで、その理由を考えられたこと。
- ・自分たちに身近な外国と自分たち(日本人)の関わりを知ることができたこと。

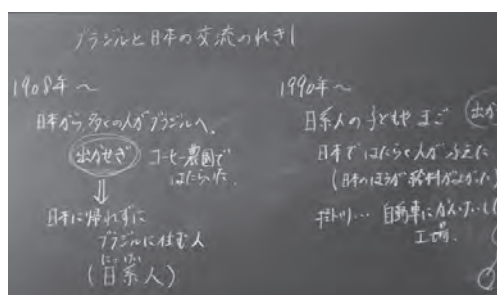
課題

- ・日本とブラジルの交流の歴史を理解することが、児童にとって少し難しかった。
- ・異なる文化や考え方などを「受け入れる」という態度をどのように養っていくか。
(小学校において、国際理解教育をどのように段階的に進めていくか)

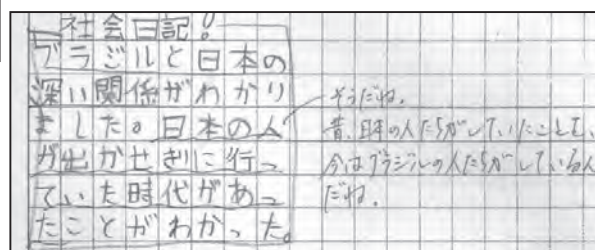
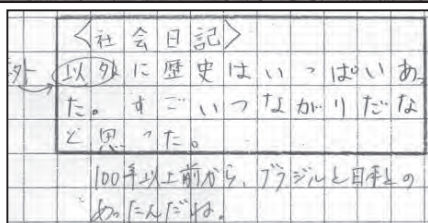
掛川市には、ブラジル関連のお店があったり、ポルトガル語で書かれた看板があったりし、児童にとっても「ブラジル人が地域に比較的多く住んでいる」ということを感覚的には認識している。そこで、国際理解の第一歩として、身近なブラジルと日本、またブラジルと掛川の関係を社会科の授業で取り扱おうと考えた。

今回は、身近な外国と自分たちとの関係を知ることが目標であった。地域の大人の中には、住んでいる外国人に対し良い印象がなく、排他的な考えをもっている人がいることも事実だ。小さな頃から学級に外国籍の子がいるような今日、異文化を受け入れる態度を養うにはとても良いチャンスであると考え。正しい知識をもつことが、将来のこの地域での多文化共生につながっていくのではないだろうか。発達段階に合わせ、小学校でできる国際理解教育を継続的に進めていくことが必要だと感じた。今回の授業が国際理解の第一歩となり、さらには将来、世界の人々と上手に関わり話し合っていける日本人となってくれるとうれしい。

(1)板書より



社会日記
わたしは日本とブラジルにそれぞれおいしい食べ物があると思う。わたしの国では、ワリしました。
おいはすごく幸せ。ブラジルなんて思う。わたしの国でワリしました。





※この資料は、朝日新聞出版の許諾を得て転載しています。

実践発表後の研究協議

- 自分たちの地元に住んでいる外国人のことを導入時に扱い、多くのブラジル人が住んでいることから、「なぜ、掛川市にはたくさんのブラジル人が住むようになったのか。」という学習問題を生み出す授業の構成は、子どもたちの思考の流れに沿うもので、それが子どもたちの意欲的な学習につながったのではないかと。
- 私の学校にも増田先生と同じように外国人の子どもがいます。子どもどうしは、外国人という意識はあまりなく、転入生が来ることを伝えても特段のことはなく温かく迎え入れるというのが現状ですが、転入生の親御さんのことで文化等の違いによる問題が発生することはあり、学校では時々悩むことがあります。
- 宿泊を伴う行事、給食、服装など、学校の中で異なる文化や考え方の違いによる問題が生じることがあり、これを平和的に解決し受け入れていく態度を子どもたちに養っていくことが求められると思います。このことは、教員にも求められることでもあります。
- 外国人の子どもということに対して、子どもたちはこれといった抵抗や違和感はありませんが、異なる文化や考え方を受け入れるということと、そういう態度をどう養うかについては今後の課題ではないかと思っています。

180° よりも大きな角の求め方を考える

「地球的問題群について考える実践」というと、社会科や特別活動、総合的な学習での実践が思い浮かびます。しかし、「ものごとを多面的に捉える力を育てる授業・実践」は、捉え直せばどの教科においても実践することができると思い、4年生算数の「角」の単元で考えてみました。授業では、友だちと関わり、他の意見を受け入れたり、認めたりする過程を大切にしました。それを繰り返していくことで、自分の認識を広げ、ものごとを多面的に捉えることにつながるのではないかと思います。

【授業の具体】

算数科学習指導案

指導者 嶋田 成幸（伊東市立大池小学校）

1 単元名「角」

2 単元の目標

直接比較や間接比較によって角の大きさをすすんで調べ、辺の開き具合、辺の回転として角をとらえ、分度器を使って、いろいろな角の大きさを求めたり、作図したり、角の合成や分解を考えたりすることで、角についての理解を深める。

3 本時の指導（5／8）

(1) 本時の目標

（学びのステージに上げる段階の工夫）

角の大きさは、三角定規の角を合成したり、分度器で測ったりすることで求められることを確認する。

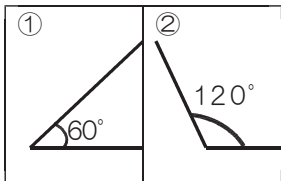
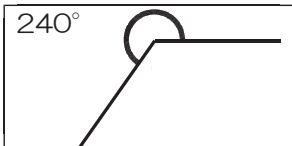
A → 分度器で測ろうとしたり、三角定規の角の合成により求められないだろうか考えたり、分からなかったりする。

手立て→ 三角定規の角の何個分かで表したり、分度器を2個使ったり、補助線を引いたり、話し合ったりする。

A' → 分度器の使い方を工夫し、180° や360° を利用して、角を合成したり、分解したりすることで求められることが分かる。

(2) 指導過程

☐ 課題・評価規準 ☐ 支援 ☐ 学びのステージに上げるための手立て ☐ モニタリング

予想される子どもの表れと教師の働きかけ・支援・評価・モニタリング	
学びのステージに上がる10分	【問題】次の角度を求めてみよう  ①は三角定規のこの部分と同じだ。測ると60°になる。 ②は90°よりも大きいぞ。 - 測ると120°になるぞ。 - 三角定規の30°と直角を合わせたものとぴったりだ。 - 一直線の180°から反対の60°を引いても出るよ。 教師の説明 分度器を使って、角度を正確に求めることができたか。
	【算数博士からの問題】次の角の大きさを求めてみよう。  - 一直線より大きいぞ。 - 三角定規の角が何個分かな？ - 分度器で測れないぞ。どうしようかな？ - どうやればいいのか？よく分からないな 理解深化 180° より大きな角を角と捉えられないAやBには、具体物により角度を示す。

180° より大きな角の求め方を考えてみよう。

学
び
を
深
め
る
25
分

① 三角定規の角を組み合わせさせて求める方法。	② 補助線を引きアとイに分けて、その和を求める方法。	③ 補助線を引き直角とウに分けて、その和を求める方法。	④ 補助線を引き 180° とエに分けて、その和を求める方法。
---------------------------------------	--	---	---

⑤ 分度器を2つ重ね合わせて求める方法。	⑥ 360° からオを引いて求める方法。
------------------------------------	--

考えがもてないAには、補助線を引いて角を2つに分けることをアドバイスする。分度器の使い方も確認し、まず1つ目の角度が求められるよう支援する。

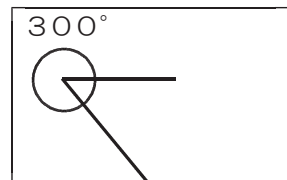
分度器の使い方を工夫したり、補助線を引いて角を分解したりして、求め方を考えることができているか。

【おたずねタイム】 ○分からないところや友だちの考えを聞いてみよう。 ①三角定規を組み合わせているな。 ②③④は、似ているけど線の引き方が違うな。 - 分度器が2つない時は、⑤のやり方はできないぞ。 ⑥はどうして下の角度を引けばよいのかな？	→【なるほどタイム】 ○考え聞き合おう。 - 三角定規の角がぴったり合わない時は、①のやり方はできないぞ。 - 円になっている分度器があれば、⑤のやり方が正確にできる。 ②は (ア+イ)、③は (90° + ウ)、④は (180° + エ) になる。 ⑥は1周は 360° だから、(360° - オ) で求められる。分度器を1回だけ使えばよいから分かりやすい。 ◎どんな工夫をするとよいのだろうか？ - 補助線を引いて 180° をつくり、残りの角度を足せばよい。 360° から反対の角を引けばよい。
---	---

A、B、Cには、直角が 90° であることや、一直線は 180° であることを、分度器を示しながら確認する。

180° や 360° の角を手がかりにして、2つの角に分けたり、 360° から引いたりすればよい。

【今日の1問】



- 次の角度を求めよう。
- まずは補助線を引いてみよう。
 - 補助線を引いて 180° をつくってみよう。
 - 360° から引けば、簡単にできそう。
 - どのやり方が1番早いかな？

○振り返り

自己評価

評価基準	A	180° や 360° を利用し、角を合成したり、分解したりすることで求められることが分かり、説明できる。
	B	180° や 360° を利用し、角を合成したり、分解したりすることで求められることが分かる。

学
び
を
ま
と
め
る
10
分

4 授業後の反省と評価

(グループでの交流)

子どもたちは、何とか自分なりの求め方を考えました。しかし、「本当にこれでいいのかな？」と不安に思っている子や、「みんなに上手く説明できるかな？」と、自信のない子もいます。そこで、まずは3～4名程度のグループになり、意見交流をしました。少人数のため、子どもたちも安心して、互いの意見や考え方を聴き合うことができます。またそれぞれの考えについて、分かったことや反対によくわからなかったところ、疑問などを訊くことで、理解を深めていました。一人一人が友だちの意見や考えを大切にしながら、交流する様子が見られました。



(全体での話し合い)

全体での話し合いでは、⑤以外の考え方全てが出されました。(②については、いろいろなパターンが出ました。)子どもたちは、自分の考えだけに固執したり、友だちの意見を否定したりすることはなく、それぞれの考え方を理解しようと説明を聞いていました。また自分の考えと比較しながら、似ている点や違う点についても吟味し、その過程でより良い方法を知ったり、自分の考えを変えたりする子もいました。⑥の方法は新たな見方であり、「そういうやり方もあるのか!」「なるほど!」と感心している子もいました。いろいろな意見を聴くことで、多面的なものの見方が少しずつ身に付いてきました。



5 資料等

(グループでの交流場面)

- A：Bちゃんはどうやったの？
B：ここが 180° で、残りが 30° だから合わせて 210° になったけど？
C：あれ、ぼくも同じやり方だけど 240° になったけど。
A：わかった。ここは $90^\circ - 30^\circ = 60^\circ$ になるから、 $180^\circ + 60^\circ$ で 240° になるんだ。
B：わたしたち気が合っちゃったね。

(全体の話し合いの場面)

- D：わたしは、ここに線を引いて、そしてここにも線を引きました。これは直角なので 90° です。 $90^\circ + 90^\circ$ で 180° です。そして、ここが 60° なので、 $180^\circ + 60^\circ$ を足して 240° になりました。
T：今のDさんのやり方は分かったよという人？自分の考えと似ていますか？
E：全然違う。ぼくは、真ん中から線を引いて横にもう1本引いて …中略… 90° と 90° と 60° をたして 240° になりました。
F：全部たすなら $90^\circ \times 2 + 60^\circ = 240^\circ$ とやれば早いよ。
G：先生、思ったことがあります。ひき算、たし算、かけ算があるんだから、わり算もあるのかなあと思いました。
H：わたしは、最初は違う考えだったんだけど、みんなの考えも聞いていて、これに似ているんですけど …中略… 180° と 60° をたして 240° だと思いました。

実践発表後の研究協議

- 子どもたちは、 180° より大きい角度が出てきたので、（えー、何これ？）という感じで面食らったと思いますが、子どもたちは、紙を回してみたり、分度器の測り方を変えてみたりと様々な工夫をして考えていることがよくわかります。
- 私もこの授業をやったことがあります、いろいろな考え方や図り方が子どもたちから出され、自分とは違う考え方や測り方を知ることを通して多面的なものの見方、考え方を学ぶにはいい教材だと思います。
- 最初は、子どもたちの多くは角を分けてそれぞれを測って最後に分けた角度を合計するという考え方でとりこんでいたと思いますが、聞かれている角度ではない角度を測り 360° から引くという考え方を出す子どもがいて、それは子どもたちにとって新鮮で、（そうか。そういう見方・考え方があるんだ。）ということを実感をもって学んだのではないかと思います。
- 子どもたちは、いろいろな見方、考え方に基づく角度の求め方を学んだと思いますが、「僕は、その中でも、やっぱり⑥のやり方が一番ベストだと思う。」と主張できることが大事だと思います。それは、納得感というか、満足感が学びに伴った状況だと思うからです。
- 嶋田先生の実践では、「お尋ねタイム」というのがあります。子どもたちは、「自分はこう考えて、こんなふうに分度器を使って角度を出したよ。」「私は、〇〇くんの方法に似ているけど、ここは角をわざわざ分けなくても、こうしたらどうかな。」などと、お尋ねタイムの中で、相手の考えを否定しないで受け入れ、見方や考え方を膨らめながら学びの質を高めているところが素晴らしいと思います。こういう学びの姿勢を育てることは、平和教育の実践として十分ではないかと思いました。
- 嶋田先生のような授業を成立させるためには、子どもたちへの普段の指導、そういう場を設定した授業の計画等、いろいろな要素があると思います。その第一にあるのは、友だちの意見を馬鹿にしない、友だちの意見のいいところを見つける、友だちの意見にきちんと耳を傾けることができる、などがあると思います。そういうお互いの関係性を育てることが、平和教育の大きな要素だと思います。
- 嶋田先生の授業で出てきたいろいろな見方や考え方は、いわば「白（正解）の中の多様性」といって、多面性」だと思います。ある子どもが、「…………だから、 260° になると思います。」と言ったとき、先生方はどうしますか。「なるほど、〇〇くんの考え方はおもしろいから 260° でもいいね。」とは言えないわけですが、間違えてしまった子どもに対し、馬鹿にしない、どこでどう間違えてしまったかをみんなで探っていくということは、失敗に共感して学級の学びにしていこうということであり、まさに平和教育として考えていいと思います。

「約束」か「夢」か 相手の立場になって考える

研究委員会の中で、「平和的問題解決能力」は、「ものごとを多面的に捉える子ども」を育成することで身に付くという考えを学び、実践をしてきました。

「自分が手品師の立場ならどうするか？」という学習課題について、結末を隠すことで子どもたちの本音に迫りたいと思いました。「自分はこう考えたけど、友だちは違う。」「どうして、友だちはそのように考えたのか。」と考え、他者理解につなげることで、ものごとには様々な見方や考え方があるということを、子どもたちと一緒に理解していきたいと思います。

【授業の具体】

道徳学習指導案

指導者 稲葉研二（静岡市立清水三保第一小学校）

1 主題名 誠実に、明るく心で楽しく生活する。 1－（4） 正直・誠実

2 資 料 「手品師」心ゆたかに（静岡県出版文化会）（1／1）
（江橋照雄「道徳指導資料」文部省）

3 本時の指導

(1) 本時の目標 二者択一を迫られた手品師の気持ちや葛藤を考え、話し合うことを通して、自分と違う考えの友だちがどうしてそのように考えたかを理解し、共感しようとする心情を育てる。

(2) 本時の展開 【手だて：①学習課題・学習問題の明確化 ②本時の振り返り】

	教師の働きかけと予想される児童の表れ	指導のおさえと留意点
導入	○「自分で選んで決めた」ことって何かある。 ・どちらにするか悩んだけど、○○を買った ・親には反対されたけど、サッカー少年団に入ろうと決めた。	・導入なので、あまり深入りをせず、事実を話すことで、資料内容への方向づけをする。
展開 (前段)	資料「手品師」を読んで話し合う。 ・先生、途中で話が終わってるよ。 ・手品師は、結局どうしたんだろう。 あなたがこの手品師だったら、この後、どんな行動を取りますか。 「男の子との約束を守る」 ・約束だから守らないと。 ・男の子がかわいそう。 ・チャンスはまたあるはず。 ・男の子との約束が最初。 「大げさ場に立つという夢をかなえる」 ・自分の夢を叶えたい。 ・チャンスは逃がしたらダメ。 ・成功して有名な手品師になれば男の子も分かってくれる。 「その他」「別の方法」 ・男の子を捜し、手品を見せ、話をしてから大劇場へ。	・「本音」、「決断」、「(自己)責任」というところに価値を求められるよう、資料の結末部分（少年との約束を守り、夢である大劇場に出演できるという話を断った）を隠し、子どもたちの考えに迫る。（手だて①） ・まずは、自分の考えをはっきりさせるために、ワークシートに書かせる。 ・自分の気持ちを明確にしてから相手の気持ちを考えることで学習問題に繋げていく。（手だて②）

展開（後段） 振り返り	僕はこう考えたけど、友だちは、どうしてそのように考えたのかな。 友だちは、どうして「夢」を選んだか。（「約束」を選んだ子が回答） - 生きていくことを優先させたんだね。 - たしかに夢も大切だ。 ・有名になってから会いに来てもいいよね。 友だちは、どうして「約束」を選んだか。（「夢」を選んだ子が回答） 「約束」を守って凄い。僕は、夢を選んでしまったから。 - 約束は守らないといけないね。 ・う～ん、でも夢だよな。 ○この続きを一応話します。手品師は、どうしたでしょうか。 - やっぱり、男の子との約束を守ったんだ。 - すごいな～。でも、夢を捨てて後悔はしてないのかな。 - 男の子はきっと嬉しいよね。 - う～ん、自分の夢ってそんなに簡単に捨てられるのかな。 - たとえ男の子を裏切ったとしても、僕は夢を選ぶよ。 ○今日の授業で考えたこと・学んだことを書こう。 - 本当に自分がこの手品師だったら、どうしただろう。 - 自分の考えを、自分で決めることができた。 - 友だちの考えもしっかり理解することができた。 ○教師の説話を聞く。 - 相手との気持ちの違いをしっかりと考えられるように、話し合いの時間を十分にもつ。 - 相手の立場に立って考えたり、相手の気持ちを想像したりすることで、ものごとには様々な見方や考え方があつたことを子どもたちに気づかせたい。 - 結末を教えることで、自分の考えと比べる。自分の考えと同じ、違うのようないふつをする。 - 自分の考えをワークシートに書く。（手だて②） 自分と違う考えの友だちがどうしてそのように考えたかを理解し、共感することができたか。（ワークシート・発言）
---------------------------	--

○授業後の反省と評価

- ・子どもたちは、「どちらかを選ぶ」ことは比較的容易だったため、どうして「約束」（または「夢」）を選んだかを自分の言葉で考え、伝えることができた。
- ・今回は、自分の考えだけでなく、相手の気持ちを予想し、違う立場になって考えることも行ったが、子どもたちには難しかったようで、考えがまとまらず、話し合いは深まらなかった。
- ・「相手の立場に立つこと」、「相手はどうしてそう考えたか、違う立場から考えること」を学んだことで、「ものごとを多面的にとらえる」ことの大切さを学ぶことができた。

4 資料等

(1) 子どもたちのワークシートより

名前 ()	
①	あなたがこの手品師だったら、この後、どんな行動を取りますか？ もしよくが手品師だったら男の子の方へ行きます。たしかに自分の夢がかなうかもしれないけれど約束した男の子が行かないとしてもかわいそうだからです。
②	友だちはどうして自分と違う考えをしたのかな。 行かないと男の子がかわいそうだけれど自分の夢がかなうかもしれないし人生を左右するようない出来事だから夢をえうんだのだと思います。
③	今日の授業で考えたこと・学んだことを書こう。 今日この手品師という話を読んで、自分のことを考えようよりもまず人のことを考えて行動するやさしさについて学びました。

名前 ()	
①	あなたがこの手品師だったら、この後、どんな行動を取りますか？ 自分には夢をとりません。理由は男の子の笑顔が見たい。夢の叶うのはもしかしたらもう一度チャンスがあるかもたけれど少年この約束は一回(二度き)しかないから私は「約束」を選びます。
②	友だちはどうして自分と違う考えをしたのかな。 少年の約束より、やはり自分の夢のほうが強く大きいんだと思う。少し約束を重く切るのはかたてもかわいそうだし少年の夢を待っているのかか思いうかんでかわいそうと思わないのか少し不満足。
③	今日の授業で考えたこと・学んだことを書こう。 私にとっては約束が大事だと思。たんなり夢をとる人と両方い少いおとろぎました。でもやはり私的には約束をとる手品師は正しく良い事をしてるなと思いました。

「少年との約束を守る」でも、自分の夢を叶えたいという気持ちもわかる。

名前 ()	
①	あなたがこの手品師だったら、この後、どんな行動を取りますか？ 私だったら「夢」をとりません。約束は守れないけどもし有名になったらテレビに出れるかもしれないからその時に男の子に見せてあげた方がいいと思います。もし上手になて見せた方がいいと思います。
②	友だちはどうして自分と違う考えをしたのかな。 男の子をうらやめるのかいやだから約束を選んだのかなと思います。した約束をやぶるのはいやなのかなと思いました。約束をうけたらこりかいます。思たからならかなと思います。
③	今日の授業で考えたこと・学んだことを書こう。 私はやはり夢を選びます。約束は大切だけれどやはり自分がせんで考えるから夢を選びます。私は夢と約束も大切だと思えてきました。

名前 ()	
①	あなたがこの手品師だったら、この後、どんな行動を取りますか？ 自分は夢をとりません。終わって男の子のところへ行きは良いと思います。夢はかなえるためにあるから、人生が大きく変わるチャンスはのがさないほうが良いと思います。
②	友だちはどうして自分と違う考えをしたのかな。 約束を選ぶ友達には男の子との約束をはたしたい。自分かと思。でも僕は約束を果した後に大劇場に立つ自分を想像して劇場は良かったなあとくいのことと田心うから約束を選ぶか疑問。
③	今日の授業で考えたこと・学んだことを書こう。 僕は今日授業で夢と約束はくらべられないけれど人によって考え方が違うこと、どううかが大切かをしっかりと見極めようと思。

「大劇場に立つという夢を叶える」約束は約束だし、やっぱり守らないといけない。

(2) 子どもたちの表れから

① 「約束」か「夢か」

ア 「少年との約束を守る」 2 1 人

- ・約束の方が大事
- ・もう一度チャンスがくるかも
- ・身近にいるお客さんを元気にしないと

子どもたちの表れとして約束を守るが多かったのは、日頃から約束・ルール等を守ることが徹底させてきたからではないかと考える。

イ 「大劇場に立つという夢を叶える」 1 0 人

- ・チャンスはのがさないほうが良い
- ・有名になってテレビに出れば男の子も分かってくれる

受験を考えている子、運動等で活躍し将来〇〇になりたいと思っている子が夢を選んでいて。

② 「友だちは、どうしてそのように考えたか」を、相手の立場になって考えてみる。

相手の立場・気持ちになって考えることで、「相手の気持ちを理解する」「相手の立場を考えることで、自分の立場を明確にする」等を意識させたかった。

ア 「少年との約束を守る」 → 「大劇場に立つという夢を叶える」

- ・自分の夢がかなう、人生を左右する出来事だから夢を選んだ。
- ・約束より自分の夢のほうが強く大きいから。少年のことをかわいそうと思わないのかな？

イ 「大劇場に立つという夢を叶える」 → 「少年との約束を守る」

- ・男の子をうらぎるのがいやだから。約束をやぶるのがいや。やぶるとこうかいする。
- ・たぶん約束をはたしたいから。自分は、大劇場に立つ自分を想像して、くいを残すと思う。

実践発表後の研究協議

- ・私がこの実践をしたときは、子どもたちのほとんどが「少年との約束を守る」で、参観した先生方から、「本音が言えていないのではないか。」という指摘を受けました。稲葉先生の報告では、「少年との約束を守る」が2／3で、「夢を叶える」が1／3という結果で、稲葉先生の学級では本音が言える子どもが育っていると感じました。
- ・私なら、「約束か夢か」のあとに、資料から離れて「じゃあ、実際の場面で自分ならどうするか」を考えさせるとします。そうすることで、子どもたちは、自分と向き合うということになり、自分の中の道徳的価値ということを考えるのではないかと思います。
- ・「約束を守る」を選んだ子どもが、「自分が本当に手品師の立場だったらどうするのか気になります。」という場面があって、この子の正直で、複雑な気持ちが自然に表出されたのではないかと思います。
- ・先生のすすめ方は、指導書で言うところの、「約束を守る」が正しい価値だということを押し付けていないところがすごくいいと思います。自分と向き合うことをとても大事していることがすばらしいと思います。
- ・今話題になっている道徳の教科化を考えると、この実践で、「約束を守る」を選ばなかった子どもの評価は低くなるのではないかと思いますところがあるのですが、それはおかしいなと強く思います。
- ・こちらの価値を選んだからいいとか、こっちを選んだらダメだとか言うことではなく、どれだけ自分が真剣に考えられたか、どれだけ違う意見をしっかり聞けたか、自分の意見と友だちの意見を比べることができたかということが評価されるべきではないかと思います。これが、道徳を通して行う平和教育と言えるんだと思います。

世界に目を向けてみよう

「地球的問題群」は正解のない問いかけです。そんな問題に立ち向かい、17歳でノーベル平和賞を受賞したマラウさんのことが話題になりました。世界に目を向けた時、自分には何ができるだろうと、子どもたちなりに考える機会にしたいと考え、この単元を設定しました。当たり前と思っていた生活が、場所が変われば当たり前ではないと子どもたちが知った時、これからの未来を生きる子どもたちがその問題をどのように捉え、向き合うことができるか、ともに考えていきたいと思います。

【授業の具体】

言語科（読解の時間）学習活動案

指導者 清水 亜矢子（沼津市立香貫小学校）

- 1 単元名 世界に目を向けてみよう（1時間扱い）
- 2 単元目標 テキストに基づいて自分なりの考えを書く力・話す力を高める。
（ア）自分の感じたことや考えを相手に伝わるように、筋道を立てて書いたり話したりできる。

3 本時の指導（1／1時）

（1）本時の目標

学校に行き勉強することは当たり前のことと考えている子どもたちが、資料から学校に行けない子どもたちの状況を読み取り、教育を受けられないことで生じる問題について話し合うことにより、相手の立場に立って物事を考えたり、自分にできることを見つけ出したりしようとする。

（2）学習過程

段階	予想される子どもの活動と教師の働きかけ 支援（○）
つかむ	- 世界地図を示し、国や地域のことで知っていることを発表し合い、世界の国々について、関心を高める。 - ワークシートを用意する。（個→一斉） 世界には学校に行けない子どもたちがいるというけれど、どれくらいいるのだろう。 その子どもたちは、世界のどこに住んでいるかな？ A 100人に1人 B 25人に1人 C 12人に1人 D 5人に1人 4つの選択肢から選んだり、当てはまる国や地域をワークシートに記入したりする。また、そう考えた理由も発表する。 - Aかな？学校に行くのは当たり前だから。 - Dかな？アフリカは貧しい国だから、学校に通えない。 - 世界の未就学児童数、日本の児童の就学率を地図上に記入し、発展途上国をはじめとし、世界には学校に行けない子どもが多数いることを確認する。 （正解：C 小学校に通えない子どもはおおよそ5700万人（2011）。そのうち女子は54%。「世界一大きな授業」2014参照）

広げる

どうしてこんなにたくさんの子どもが学校に通えないんだろう。

(個→一斉)

- ・学校に通うお金がないんじゃないかな。
- ・学校が近くにないからだと思うよ。
- ・国が戦争をしているから。
- ・お金を稼ぐために子どもでも働いているんじゃないかな。
- ・戦争で学校が壊されてしまったからかな。

- ・労働する児童や兵士になった少年、早くに結婚し子どもを産んだ少女などを写真で紹介し、それぞれの国が抱えている背景について理解できるようにする。

深める

学校に行けなかった子どもたちにどんな問題が起こるだろうか。

(一斉)

- ・文字の読み書きができない。
- ・本を読んだり、手紙を書いたりできないから困ると思う。
- ・計算ができないから、買い物もできない。
- ・いくら買ったのか分からない
- ・おつりとかごま化されても気づかない。

- ・世の中のことで知らないことが出てくる。
- ・やりたい仕事につけない。

○生じる問題について予想できない児童には、文字当てクイズに参加させることで、文字が読めないことが命にかかわる問題にもなることに気づけるようにする。

文字当てクイズ「どちらを選ぶ？」

- ・塩水、砂糖水、普通の水を入れたペットボトルを用意し、それぞれのペットボトルにアラビア語で書かれたラベルを貼っておく。

塩水……………「毒（ネズミ用）」ラベル

砂糖水……………「熱冷まし」ラベル

普通の水……………「栄養」ラベル

(「世界中の子どもに教育を」キャンペーン 2009 のアクティビティを参照)

- ・ストーリーを読んだ後、「あなたなら、3つのびんのうち、どれを選びますか？」と投げかけ、選んだ理由を聞く。ペットボトルに用意した水を飲んでもらう。(正解は、砂糖水(熱冷まし))

○びんを選んだ時、意味を知った時どんな気持ちでしたか、共有する。

学校に行けない子どもの問題に立ち上がった人の考えを聞きましょう。

(一斉)

- ・マララさんの生い立ちや活動について説明する。
- ・マララさんのとりくみが必ずしも好意的に受け止められていない点を取り上げ、様々な考え方があり、その考えも受け止めて問題を捉えなければならないことを押さえる。

ふり返る

1時間の学習から、自分ができていることを考えてみよう。

(個→一斉)

- ・自分は学校に通えるのが当たり前と思っていた。一生懸命勉強しなきゃいけないと思う。
- ・世界には、学校に通えなくて苦勞している子どもがいることを知らせたい。
- ・字が読めないことが大変なことだと知った。学校へ行ける子どもが増える世界になってほしいと思う。
- ・世界のみんなで、どうしたらいいか考えられる世の中にしたい。

- ・自分なりの考えをもてたところで、互いの考えを交流し合う時間を取り、多様な考えにふれられるようにする。

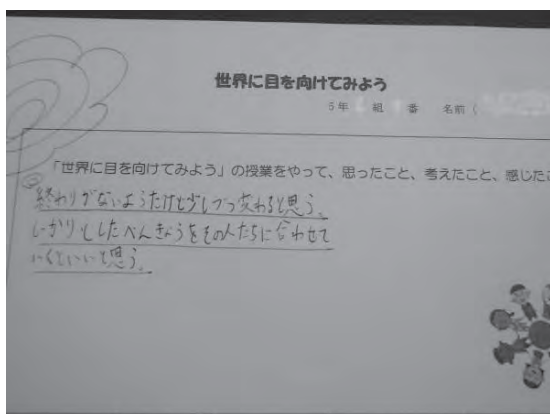
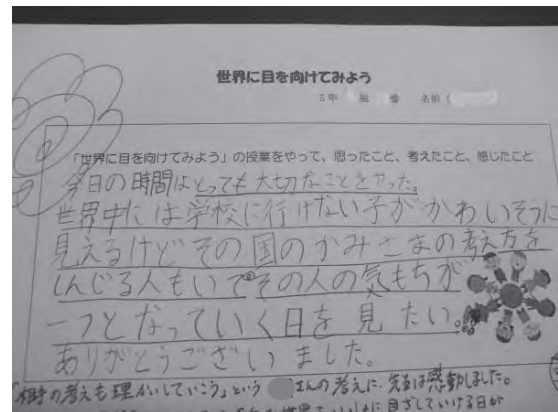
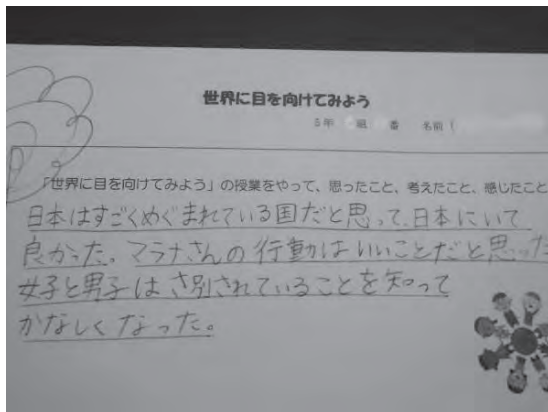
4 授業後の反省と評価

社会科で世界地図を扱ったり、ニュースで外国の様子（特に最近のイスラム国の問題など）を見聞きしたりしている子どもたちなので、本授業で扱った話題への関心は高かった。世界で学校に行けない子どもがいて、その数は何千万人だろうと漠然とした思いを子どもたちはもっていたが、現状を明らかにしたことで、原因や問題点を考えたり、自分の生活と比べたりすることができたと考える。

互いの考えを交流させ、友だちの考えや思いを聞いた時、自分の考えがどう変容するのかとくんでみたい。

5 資料等

(1) 子どもの感想



(2) 参考教材・資料

- ・「世界中の子どもに教育を」キャンペーン 2009（ホームページ：www.jnne.org/gce2009）
- ・「世界中の子どもに教育を」キャンペーン 2010（ホームページ：www.jnne.org/gce2010）
- ・「世界中の子どもに教育を」キャンペーン 2011（ホームページ：www.jnne.org/gce2011）
- ・「世界一大きな授業」2014（ホームページ：www.jnne.org/gce2014）
- ・「マララ 教育のために立ち上がり 世界を変えた少女」（マララ・ユスフザイ、パトリシア・マコーミック著 道傳愛子訳 岩崎書店）

実践発表後の研究協議

- ・言語科というのは、沼津市が文科省より教育特区を受け行っている教科で、週1時間ぐらいやっています。指導案も、学習活動案としてあるのは、本校独自の指導案の形式です。
- ・学校に行くことが当たり前になっている子どもたちに、世界に目を向けたらどうかという学習課題でとりくませることを通して、世界の状況や学校に行くことができない要因を考えるとともに、世界に目を向けることの大切さを育てたいと考えました。
- ・ふり返りの段階で、自分ができることを考えようという働きかけがありますが、こういうことが、学習したことと自分が向き合うことになるので、とてもいい試みだと思います。
- ・子どものふり返しの中で、「日本の事件とかのニュースは見るけど、他の国のニュースは見なかった。これからは、他の国のニュースもしっかり見たい。」という子どもがいたと報告がありましたが、授業を通して、外に目を向けたり、関心をもったり、見方を変えたりするんだと感心しました。
- ・「世界の国々で起きている争いや問題は終わりがいいわけじゃなくて、少しずつ変わると思います。」という子どものふり返しは、子どもながらにすごいなと思いました。こういうことを考え、文字にして授業を通して全体に紹介し、触発していくことは、平和教育と十分言えるのではないかと思います。
- ・直接授業のことではないのですが、子どもたちが、こういうふり返しができるのは、言語科という教科を1年生のときから積み重ねてきた一つの成果だと思います。つまり、いろいろなものの見方ができ、それを表現できる力をつけてきたからだと思いました。
- ・平和教育の手法はいろいろあると思いますが、まずは「知る」ことって大事だと思います。私たちが、知らせ、その事実から、何を学び、自分は何ができるか、何をしたらいいかを考えることで、平和教育の実践になるのではないかと思います。
- ・清水先生の実践のすばらしいところは、「相手の立場に立つ」ということについて、文字当てクイズをやっていることです。今まで相手の立場に立つというのは、想像するだけだったと思いますが、清水先生は文字当てクイズをさせています。これは、想像して相手の立場に立つのではなく、相手になってしまうということなんです。文字当てクイズをやったことで、子どもたちは、字が読めないことがどれだけ大変かを身をもって感じたと思います。
- ・多くの先生方の実践を聞かせていただき、多面的なものの見方、考え方を育てよう、問題を平和的に解決する力を身に付けさせよう、という研究実践のここ数年の蓄積と深まりを感じます。この方向で、さらなる地道な実践を継続していくことが大事だと思います。



戦争と人々の暮らしについて考える

研究委員会の中で、「白黒がはっきりとつけられないことが少なからずあり、そのようなときには、自分のもっている視点を一旦離れ、相手の立場に立って多角的にものを見て考えることが大切であり、それが、平和的な問題解決の根幹である。」ということ話し合いました。

現代生活を送っていると、戦争について考えることは多くはありませんが、社会科の学習を通して、「戦争や平和」について子どもたちと一緒に多面的に、広い視野から考えてみたいと思います。

【授業の具体】

社会科学習指導案

指導者 倉田智幸（浜松市立有玉小学校）

1 単元名 戦争と人々の暮らし

2 単元目標

○空襲による被害の様子と現在の様子から、戦争とその時代を生きた人々の暮らしに関心をもち、すすんで調べようとしている。

（社会的事象への関心・意欲・態度）

○戦争の状況と人々の暮らしの変化とを関連づけて考えることができる。

（社会的な思考・判断・表現）

○日本が国際社会の中で孤立していったことや、戦争がアジア・太平洋に広がっていったことについて、写真や地図、年表などから読み取り、まとめることができる。

（観察・資料活用 of 技能）

○戦争で、日本の国民が大きな被害を受けたことや、他国にも大きな被害を与えたことを理解することができる。

（社会的事象についての知識・理解）

3 学習計画

時 数	主 な 学 習 活 動
戦火に焼けた日本 ①	○東京大空襲での被害の様子を調べ、戦争とその時代の人々の暮らしに関心をもち、学習問題をつくる。
中国との戦争が始まる ①	○日本が中国大陸に進出し、中国との間で戦争が起こった経緯について調べる。
アジア・太平洋に広がる戦争 ①	○戦争がアジア・太平洋地域へと広がっていく経緯とその背景を調べ、日本の状況や他の地域に与えた影響について考える。
戦争と人々の暮らし ①	○戦争が人々の暮らしにどのような影響を与えたのかを調べ、当時の人々はどのような思いだったのかを考える。

子どもたちと戦争 ①	○戦争中の子どもたちの暮らしの様子を調べ、当時の子どもたちの思いや願いを考える。
おそいかかる空襲 ①	○空襲の様子と被害の大きさについて調べ、戦争が国民生活に及ぼした影響について考える。
沖縄・広島・長崎、 そして敗戦 ③	○沖縄戦や広島・長崎の原爆の被害について調べ、この戦争が大きな犠牲をはらって終わったことを理解し、戦争の学習から学んだことをまとめ、発表する。

4 本時の指導（4／9）

(1) 本時の目標

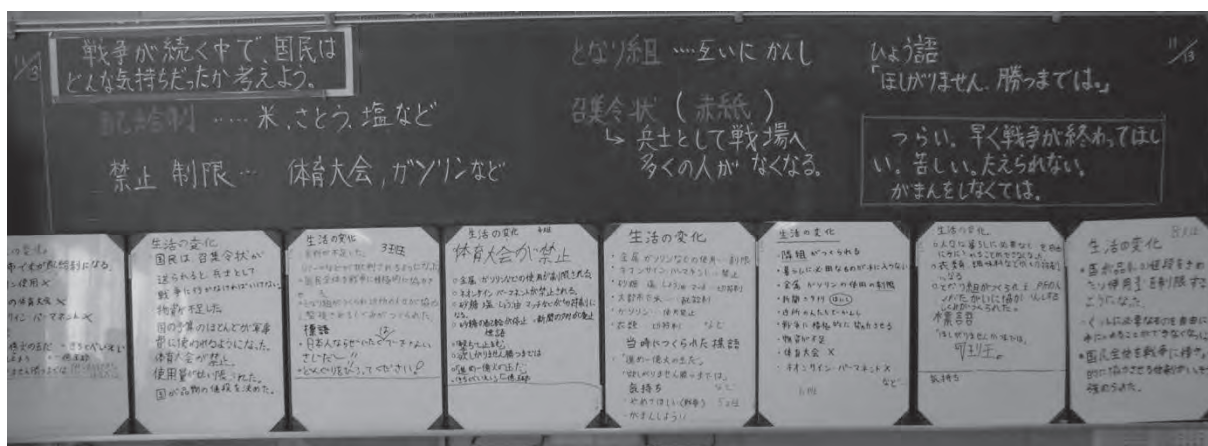
戦争が人々の暮らしにどのような影響を与えたのかを調べ、当時の人々は、どのような思いだったのかを考える。

(2) 指導過程

時間	教師の働きかけと予想される子どもの活動	留意点
0	1 戦争の広がりについて知る。 ○1937年 7月 日中戦争が始まった。 ○1941年 7月 フランス領ベトナムに兵を進めた。 ○1941年12月 太平洋戦争が始まった。 戦争が続く中で、国民はどんな気持ちだったか考えよう。	※地図提示し、日本軍の動きを確認しながら、戦況の広がり確かめる。
5	2 国民生活の変化を調べる。 ○召集令状がとどいた。 ○隣組をつくらせた。 ○配給制となり、物が不足した。 ○標語がつくられ、「欲しがりません勝つまでは。」などがあった。	※写真や電子黒板を使って、画像の資料を提示し、当時の国民生活を感じ取ることができるようにする。
20	3 戦争が続く中で、国民はどんな気持ちだったか考える。 ○戦争が早く終わってほしい。 ○普通の暮らしがしたい。 ○こんな毎日、つらくて仕方がない。 ○兵隊さんががんばっているのだから、協力しなくては。 ○もし負けたら、国が滅びてしまうのでは。勝たなくては。	※一方の視点からだけでなく、様々な視点から国民の気持ちを考えるように助言する。
40	4 学習を振り返り、自分の考えを書く。	評価 戦争が続く中で、国民はどんな気持ちだったか考えることができる。

5 授業後の反省と評価

- 戦争当時の国民生活を知るための資料を多く集めることができた。その中から、子どもたちが想像をすることができると思われる資料を選択し、提示した。資料を根拠に自分の考えをもったり、友だちと意見交換をしたりすることができた。
- 戦争があったことを知っている子どもは多かったが、実際に国民がどんな生活を送っていたかを詳しく知っている子どもは少なく、驚きの声が聞かれた。
- 戦争当時の国民の気持ちを考えたが、「戦争が早く終わってほしい。」「平和な生活が戻ってほしい。」という声が多かった。しかし、「もし戦争に負けたら、日本はさらに大変なことになってしまう。兵隊さんにがんばってもらい、日本を守るために勝ってほしい、と考えていた人もいたのでは。」と想像する声もあった。視点を変えて話し合うことにより、多面的に考えることができた。今後も、子どもたちには、一方の側から考えて思考を停止させてしまうのではなく、いつでも、違う視点から考えていくという習慣をもち続けてほしい。



6 資料等

- 本校では、全学級に電子黒板が設置されている。パソコンの中の画像資料を、素早く提示したり拡大したりすることができるため、子どもたちに伝えたいことを、的確に示すことができる。
- 電子黒板では、画面上にラインを引いたり印をつけたりすることができる。資料の中で着目してほしいところにマークをつけたり、見落としがちな箇所にラインを引いたりすることにより、子どもたちは資料を読み解く力を身に付けることができた。



実践発表後の研究協議

- ・「戦争が続く中、国民はどんな気持ちだったかを考えましょう。」という発問に対して、多くの子どもたちが、「戦争が早く終わってほしい。」「普通の暮らしがしたい。」と考える中、「協力しなくては…。」と考えた子どもたちがいたという話が授業者からありました。これは、悩ましい反面、とてもいい意見だと思います。戦争が起こると戦場に行くのは、隣のお兄さんであったり、場合によってはお父さんであったりするわけです。単純にお国のために私も何かしなくてはという全体主義的ではなく、やはり自分に近い人が戦争に行っているという現実において、「協力しなくては…。」という想像力が出てくるのは、ある意味当然なことだと思います。ただ、こういう考え方に対して、教師がどう考え、授業の中でどう扱うかは難しいことではありますが、こういう意見を取り上げて話し合うことは、大変価値のあることだと思います。
- ・本当にそのとおりだと思います。教師が「戦争で人殺しに協力するなんて考えてはいけません。」と簡単には言えません。「大変な思いをしているんだから協力しないと。」という考えは、他者に対する正常な共感というものだと思います。戦場で頑張っている人がいて、その人が死ぬ思いをしているんだから協力したいと思う気持ちは、人間として非常に大切なことだと思います。こういう気持ちに対して、否定することなく、ものごとを多面的に捉えた見方・考え方ができる力を子どもたちに付けることが大切だと思います。
- ・授業をやっていて、ここは本当に悩みました。戦争はダメだから、戦争は反対だから、「協力しなくては…。」という考えを否定することは、あまりに単純で、乱暴だと思いました。
- ・この問題は、戦場にいる人が自分に近い人という視点に立つと、「協力しなくては…。」という考えが出てきて、これは、まさに多面的な見方ということになると思います。漠然と戦争を捉えると「早く終わってほしい。」というのが自然な考えだと思います。そういう意味で、戦争というものを多面的に見て考えているということだと思います。
- ・自分の家族が戦場に行っていたらと考えると、実はその戦場にいる相手の人にも家族や友人がいるわけで、この人たちも、同じような思いを持っているということになり、こういう想像力が、多面的なものの見方、考え方を引き出すのではないかと考えます。
- ・子どもたちは、「協力しなくては…。」の意見から、多面的にものを見て考えるという視点を一つ持ったような気がします。
- ・この授業を日常の授業の一つとして実践する場合と、この委員会で研究している「多面的なものの見方、考え方や相手の立場に立って考える」という視点をもって実践する場合とでは大きく違いが出るように思います。多面的なものの見方、考え方を付けたい力として少し意識するだけで、授業に深まりが出てきます。

誰に対しても公正・公平に接しよう『お別れサッカー大会』

「様々な立場でものごとを考えること」は、「多面的なものの見方」へとつながるのではないかと、研究委員会の中で話題になりました。

私たちが普段行う道徳の授業の中にも、自分の置かれている立場によって考え方が変わってしまうという事例があります。道徳の授業を通して、他者の考えを受け入れながら自分の考えを深めていく事を大切にしていきたいと思います。

【授業の具体】

道徳学習指導案

指導者 野村 智子（牧之原市立細江小学校）

1 主題名 公正・公平な態度で接しよう

資料名 「お別れサッカー大会」出典『心ゆたかに 6 年』（静岡教育出版社）

2 本時の指導

(1) 本時のねらい

誰に対しても差別や偏見をもつことなく、公正・公平に接し、正義の実現に努める心情を育てる。

(2) 指導過程

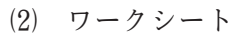
段階	教師の働きかけと予想される子どもの活動	留意点
導入	○不公平な扱いをされたとき、どんな気持ちになりましたか。 - 同じことをしても自分ばかり怒られた。 - グループを作るときに、仲間はずれになってしまった。	人間関係にひびが入らないように配慮する。
	資料「お別れサッカー大会」を聞いて、正也さんの気持ちについて考えよう。	
展開	○正也さんは、どんなことで迷っているのでしょうか。 - 試合時間が決まっているのに、20 秒も過ぎてしまったから、そのことを知らせようかどうしようか。 20 秒過ぎていることを知っているのは自分だけだからから、言わなくてもいいだろう。 - 友だちの大介さんがゴール決めたから、知らせない方がいいか。	審判として、公正・公平に判断しなければならない気持ちと、友だちの努力を認めたいし、友だちだからこそ裏切れないという思いで揺れ動いている気持ちを十分にくみ取らせる。
	○正也さんはどうすればいいのだろう。 【知らせる】 - いくら仲よしでも決められたルールは守るべきだ。 【知らせない】 - 大介の努力が実ったから。 - あんなに練習してきたんだから。	

終末	【知らせる】 - 自分の役割を果たすのは当然だ。 - 大介だけでなく、相手チームも一生懸命してきたから。 - 本当の友だちなら、正也さんの気持ちをわかってくれるだろう。 - 自分に任された仕事だから。	【知らせない】 - 言ったら、大介はとてもがっかりするだろう。 - 自分しか知らないんだからそのまま黙っていよう。 - 本当の友だちの喜ぶ顔を消したくない。 - もしかしたら、大介に嫌われてしまうかもしれない。	正也はどうするのがいいのか、まず自分で考え、ノートに書く。
	○話し合いをして、もう一度自分の考えを書いてみよう。		話し合いの時間を十分にとり、両方の立場の考えを聞き、自分の考えを深めたり、変えたりできるようにする。
	・やっぱり、みんなに公平に知らせるべきだと思う。 ・大介のことを考えて、ぼくだけの秘密にし、知らせないようにしよう。		
	○自分が正しいと信ずることを、勇気をもって言えたこと、あるいは、どうしても言えなかったことはありますか。 ・サッカーの試合でラインを割っていたので、正直に自分から言った。 ・友だちが悪口を言っていたけれど、自分も言われるから、何も言えなかった。 ○教師の説話を聞く。		- 話し合い後、もう一度、正也はどうするのがよいのか書かせる。 - これまでの自分を振り返らせる。

3 授業後の反省と評価

- 普段の生活の中で、自分が心の葛藤を迫られそうな場面の題材であるために、子どもたちは、意欲的に話し合いにとりくむことができた。
- 話し合いの中では、自分は大介の友だちであるが審判を任されており、お別れサッカー大会のために、サッカーの練習をしていた人はまだ他にもいるため、知らせるべきだという意見が多数出された。またそれと同様に、大介の友だちだからこそ、今までがんばってきた姿を知っているからこそ、そのまま知らせない方がよいという考えも多数出され、それぞれの意見を聞き、皆で話し合うことによって、ものごとを多面的に考える力へとつながった。
- 話し合いでは、「知らせる」「知らせない」の二者択一の答え方になってしまう子どもが多かったが、第3の道を探るという意見も出された。
- 第3の道として、「まず、みんなに正直に言う。そして、先生に頼んで延長戦を行ってもらおう。」「大介さんを表彰するなど、大介さんを他の場で生かす場を作ったらどうか。」の意見が出た。これらの意見は、二者択一の答え方ではなく、みんなが納得できる新たな方法を、自分たちで導き出したものである。このように、他者の意見を受け入れつつ解決に導く方法を考えられるような子どもを育成していくことが、ものごとを多面的に考える教育につながっていくと考える。

(1) 授業の板書



話し合い後



実践発表後の研究協議

- ・野村先生の実践は、正価値と反価値の葛藤の教材です。明らかな「いい・悪い」がなかなか言い切れないような教材であり、他者の考えを受け入れながら、自分の考えを深めていくことを大切にするという授業者の意図は十分理解できました。
- ・私は、この授業の終末の教師の説話で、ジョージ・ワシントン話をしました。それは、「正直に言おう」という価値づけをしているわけですが、実際の授業ではどう価値づけるかは本当に難しい問題で、葛藤して終わりでもいいのではないかと思う教材の一つでした。
- ・「試合時間が決まっていて20秒過ぎているから、それを伝え訂正しないといけなかったことはわかるけど、大介君とはいっしょにやってきたから僕には言えない。」「自分に任された時計係の仕事だから、その役割を果たすのは当然だ。」など、葛藤することこそ、道徳の時間だと思います。そのことで、自分の考えや友だちの考えを通過させながら、自分の考えをより深められたとなればいいのではないかと思います。
- ・「ルールだから得点は無効だけど、ゴールした大介君を特別に表彰しよう。」ということになると、それはそれで平和的構築ということにもなりますね。
- ・ただ、それは、道徳の時間で扱うことかと言うと、少し疑問があるような気がします。得点は無効だけど、あとで表彰というのは、平和教育という視点から見た場合の議論だということだと思います。
- ・先生方は、貴重な授業実践を通して、（こういうことを授業でやることにより、平和な心を持った子どもになるね。）ということは気づいているので、「ああこういう力なんだね。」ということ整理しておく、（こういう授業で、こういう力が付くね。）となり、実践へのチャレンジが広がるのではないかと思います。
- ・野村先生の授業では、子どもたちが、「ルールだから…。」「私だったら、黙っていると、自分の心がすっきりしないし…。」などと深い話し合いができています。そのことを通して、自分とは違う考え方の意見を最後まで聞くことができたとか、最後まで悩みぬいたとかがあって、子どもたちが何かしら獲得したと思います。そういう子どもたちが身に付けた力を先生方の授業実践を通して蓄積し、それを、「これが、平和構築力だね。」とか「これは、少し違うかな。」と整理してみてはどうでしょうか。つまり、平和教育をやっているという立場で授業を実践し、その過程の中で、子どもたちにどういう力が付いたかを検証するという方法も考えてみてはどうかと思います。



自分らしさ

研究委員会での協議を重ねる中で、「いつでも、どこでも、誰でもできる平和教育」を実践するために必要なことは、何をやるかではなく、どのような力（平和構築力）を育てたいのかということに目を向け、その思いをもって授業に臨むことだと思えるようになりました。今回の授業では、身に付けさせたい平和構築力を「自分とは違う価値観をもった人と意見を交流し合い、お互いの考えを尊重することができる力」としました。身近にある「ジェンダー・バイアス」について自由に意見を言い合う姿を大切にしながら、多様な価値観について子どもたちと考えていきたいと思っています。

【授業の具体】

道徳学習指導案

指導者 中田健太郎（熱海市立熱海第二小学校）

1 主題名 自分らしさ 内容項目 IV－（3）公正・公平・正義

2 主題設定の理由

(1) 価値について

人を差別することなく一人一人の人間を尊重することは、人間が社会生活を営むうえで最も大切なことである。しかし、ジェンダー・バイアス（ジェンダーにもとづく偏見）が日常のさりげない部分にひそんでいることは明らかであり、これからの時代に生きていく児童にとって、同じこともその人その人によって受け取り方や考え方が違うことを知り、ジェンダーにとらわれない行動や生き方を選んだり、考えたりする態度を養うことは必要なことである。

(2) 資料について

児童の日常生活のなかにある場面を取り上げることで、自分の体験の中から、身のまわりにあるジェンダー・バイアスに気づくことができる。

3 ねらい

普段の生活の場面を振り返りながら、自分のもっているジェンダー・バイアスや社会におけるジェンダー・バイアスについて考え、意識をもつことで、ジェンダーにとらわれないで、行動、生活してこうとする態度を養う。

4 本時の指導

(1) 本時の目標

自分のもっているジェンダー・バイアスや社会におけるジェンダー・バイアスを発見し、そのことについて人と意見交換することを通して、無意識のうちにジェンダーにとらわれていた児童が、ジェンダーにとらわれない見方や考え方を意識するようになる。

(2) 授業構想

まず、事前に「もし生まれ変わるとしたら？」「男と女どちらが得か？」というアンケートをとり、授業の初めに集計結果を配布する。「男が得」と感じている児童の方が多くいることが予想されるが、自分の考え方と違う人がいることを知り、その後の活動に向けた意欲を高めたい。

次に、「これってへん？20の質問」のワークシートを利用して、自分の考え方を整理したり、男女ペアで、一つの項目について、「公平か、不公平か」を話し合ったりしていく。この活動では、何を男女平等の根拠にし、それがどうつくられたかを確認することが目的なので、結論を押しつけることがないように気をつけ、担任は、話し合いがスムーズに進むよう支援をしていく。

最後に、「自分を見つめるワークシート」にジェンダーについて話し合ってみて、自分が感じたことや考えたことを書き、自分の心の変化に気づくことができるようにする。

(3) 指導過程

段階	教師の働きかけと予想される子どもの活動	支援及び評価（★は支援 ※は留意点）
導入	- ジェンダーの意識がしっかりもてるよう、今日の学習課題を黒板に提示する。 『〇〇らしさ』について考えよう。 この『〇〇』にはどんな言葉が入るでしょうか？ - 男らしく ・女らしく ・6年生らしく - 自分らしく ・子どもらしく 事前アンケートの集計結果を配り、読み上げる。 アンケートの集計結果を見て、最初に感じたことをワークシートに書きましょう。	※子どもの経験の中から、「〇〇らしく」という言葉に対する感じ方について考えることで学習課題がより身近なものになるようにしていく。 ※どのような場面で「〇〇らしく」という言葉を使うか、想像するよう促す。
展開	- 絶対に男の方がいいと思うけど、女の方がいいという人もいるんだ。 - わたしは女の方が得だと思うのに、男の方が得だという人がたくさんいてびっくりした。 いろいろな考え方の人がいることがわかりますね。それでは、『これってへん？20の質問』に挑戦してみましょう。 - 男だって、人前でははずかしいよ。 - 女だから上品でいなくてはいけないというのはおかしいと思う。 今度は男女ペアになって、20の質問について考えてみましょう。お互いの意見が違っているところは話し合っ て決めてください。 - 同じ場面でも、男と女で感じ方や考え方が違うこともあるんだね。 - 相手の話を聞いていたら、それも正しいと思えてきた。 - 同じ考えだとうれしいね。	★アンケート結果を読み上げている時も、AやBが、自分が思ったことを率直に発言することが予想されるので、取り上げていく。 【評】身のまわりにあるジェンダー・バイアスについて、自分なりの考え方をもっている。 (ワークシート、発言) ★人の考えが気になってしまうCには、自分の正直な気持ちを書けばいいことを伝える。 ※無意識のつぶやきがあれば、全体に紹介する。 ※学習形態については、各自が自分の思いを確実にもち、積極的に話し合いに参加できるよう、個人→ペアというように、少しずつ話し合いの輪を広げていくように設定する。 ※相手の考えを尊重するような意見を取り上げ、全体に広げる。
終末	今日の授業のまとめをしましょう。たくさんの人と話し合った感想をワークシートに書きましょう。 - 男も女もそれぞれいいところがある。 - 男女はあまり関係ない。 ジェンダーにとらわれない見方や考え方を紹介する。 ◎みんなの身のまわりには、男らしくとか女らしくとか、社会や文化がつくりだしたかたよった考え方がたくさんあります。これをジェンダーといいます。これから先、生活していく上で大切なことは、自分らしく生きていくということです。	【評】ジェンダーにとらわれない見方や考え方をもち、今後の生活に生かしていこうという気持ちをもっている。 (ワークシート、発言) ※話し合いの結果や各自の感想を掲示し、ジェンダーにとらわれない見方や考え方が継続するようにしていく。 ※保護者と一緒にとりくむ機会を設け、親子でジェンダーにとらわれない見方について考えられるようにする。

5 授業後の反省と評価

事前アンケートの結果を発表した時や「これってへん？20の質問」の回答を友だちと比べた時など、自分とは違う価値観に出会った瞬間の子どもたちは、素直な驚きと共に、「どうしてそう考えるのだろう。」と、相手の内面に強い関心を抱いていました。今回の授業では、身近にあるジェンダー・バイアスについて取り上げたことで、自らの生活経験と比較しながらより具体的にその場面を想像することができ、活発に意見を交流し合う姿が見られました。戦争や環境問題などを題材にして世界の平和を考える活動ももちろん大切です。しかし、日頃の授業や生活の中にあるちょっとした価値観の違いを意識的に取り上げ、相手がどうしてそう思ったのかと思いを巡らすような経験の積み重ねこそが、「いつでも、どこでも、誰でもできる平和教育」の礎であり、あまり難しく考えずに、学校生活のいろいろな場面でチャレンジしていくことが大切なのだと思いますようにになりました。

また、事後の活動において、保護者と一緒に「これってへん？20の質問」に挑戦する場を設定した際には、保護者から「子どもでも自分の考えをしっかりと持っていることがわかり、成長を感じた。」とか、「自分の価値観が偏っていたことを、子どもに気づかされた。」といったような感想が多く聞かれました。子どもにとっても、大人にとっても、新しい発見があるとりくみになり、この授業を実践してよかったと思いました。

6 資料

(1)事前アンケートの結果

☆アンケート項目 ①もし生まれ変わるなら、男になりたい？女になりたい？

②男と女、どちらが得だと思いますか？

もし生まれ変わるなら、男になりたい？女になりたい？			
性別	男になりたい	どちらでもいい	女になりたい
計	18	12	5
理由	・男の方が気楽でいい。 ・男には裏がないというか、男子は全員と仲がいいなって思う。修学旅行の班は誰とでもいいって言っていた男子がいた。 ・女のかげ口にまきこまれないから。 ・けんかはあるが、すぐに仲直りできる。女だとけんかすると3日間とか続いてめんどくさい。 ・女は友だち関係がめんどくさいから。 ・男だったら平和でいられる。 ・今と変わらない生活ができるから。 ・男の方が背も高くなるし、力も強いし、足も速いし、運動では男が得だから。 ・男の方が背が高くなる感じがするし、スポーツもすごいことができる感じがするから。 ・今と同じでいいから。 ・男になってみたいから。 ・女になったらつまらなそう。	・男でも女でもほとんど同じだと思う。 ・男にも女にもいい事もあるし、悪い事も同じようにあるから。 ・どっちでも楽しい人生になると思う。 ・別にどちらになっても、それなりに楽しいことはあるから。 ・女にいいこともあるし、男にもいいことがあると思うし、よくわからない。 ・もう1回男でもいいし、別の女になってもいいから。 ・男は多く仕事がありそう。女は子どもでも大人でも、多少のハンデがもらえる。だからどちらでもいい。 ・人間になれるならどちらでもいい。 ・男か女に生まれても人間は人間だから。	・女はかわいい服を着たり、オシャレしたりできるから。 ・美少女になってもてたいから。 ・女の方がいろいろなことができるから。 ・男にはなりたくない。何かいろいろといやだ。 ・できるなら両方やりたい。 ・男と女では人生も変わる。

(2)「これってへん？ 20の質問」 質問項目

- 1 男は、人前でもはずかしがらずにいろいろなことができるから、うらやましい
- 2 女の子が、お店で買い物をしたらおまけしてくれた。
- 3 男は、運動とかですぐれているからえらい。
- 4 おばあちゃんの口ぐせは、「女は上品でなくてはいけない。」だ。
- 5 近所の焼き肉屋では、男性3000円、女性2000円で食べ放題。
- 6 ご飯をガツガツ食べても、男ならおかしくない。
- 7 「女の子なんだから、1年生にやさしくしてね。」と言われる。
- 8 けがをした時、「男のくせにメソメソするな！」としかられた。
- 9 男は、仕事をしていれば、家事の手伝いなんてなくていい。
- 10 女は家事をすれば、家でぐうたらしていてもいい。
- 11 サッカーに入ろうとしたら、男の子に「女はだめ」と断られた。
- 12 家族で一番えらいのは男だ。
- 13 先生は、忘れ物をした時、かわいい女の子ならすぐに許してしまう。
- 14 その学校では、男のかばんは青、女のかばんは赤と決まっている。
- 15 人気者の男の子は、おこられても笑ってごまかすことができる。
- 16 ボク（男）がアイドルのCDを買うと、おかしい目で見られた。
- 17 女の方が、まじめで努力家である。
- 18 お祭りで、女は大だいこをたたくことができない。
- 19 男は、仕事があっても楽しくやることができる。
- 20 その学校では、男の子はズボン、女の子はスカートと決まっている。

実践発表後の研究協議

- ・身近にあることを例に男らしさ、女らしさを取り上げ、ジェンダーの視点から見てどうかと問いかけ、様々なことに気づいていくという授業実践ですが、自分（授業者）として、「平和教育って何をするの？」と問いかけられても答えがなく、試行錯誤の状況にあります。
- ・「平和教育ってこれです。」と胸を張って言える状態にないのは、私自身も同じで、平和教育をどこで、どう扱うのか、何をねらいに授業実践をするのかなどは、自分自身も手探りの状態であるし、この研究委員会で学びたいと思っています。
- ・中田先生の実践は、指導案のねらいに「ジェンダーにとらわれなくて、行動・生活していこうという態度を養う。」とあり、これは、ジェンダーバイアスから派生する諸問題を、偏見という視点から考え、そういう問題を回避したり、解決したりする態度を育てようということだから、平和教育の範疇の実践と言えるのではないのでしょうか。
- ・私も同じ考えをもって、「ジェンダーにとらわれなくて、行動・生活していこうという態度」というのは、平和的な問題解決能力につながっていくように思います。ただ、学級の中で、ジェンダーの問題を考えることを通してでき上がってくる平和的な問題解決能力とは何なのかということは、これからの課題であると思います。
- ・私も所員1年目で、何をもって平和教育というのか、こういう授業が平和教育だと言えるものがなく、まさに手探りの実践を重ねてるという段階です。
- ・平和教育という言葉は、職員室で市民権を得ていないというのが現状ですが、「平和教育とは、ものごとを多面的にとらえ、問題を平和的に解決する能力・態度を育てる実践」と押さえ、これをバックボーンにもって授業実践をし、内容だけでなく、学び方においても、そういう力を育てることをねらいに実践してみてもはどうでしょうか。

平和とは何かということについて考える

「平和」の反対は「戦争」でしょうか？戦争のない状態が必ずしも平和とは限らないと思います。それは、戦争がなくなっても、人としてもつべき最低の権利をもっているか、不公平がないか、社会的暴力がないか、これらをすべて考えた上で平和な状態かどうか判断できると思います。その社会からなる構造的暴力に侵されず、調和がとれて、そして、戦争がない状態であって初めて平和といえると考えます。このことを生徒と一緒に考えて、平和学習への導入としたいと思います。

【授業の具体】

道徳学習指導案

指導者 齊藤秀典（富士市立富士南中学校）

- 1 主題名 「平和について考えよう。」
- 2 主題について
 - ・世界の国々の多様性を尊重し、平和を妨げる様々な問題を理解し、望ましい平和的な解決方法のあり方を考える。
 - ・世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。

3 本時の指導

(1) 本時の目標

平和学習に対し、難しいという印象をもつ生徒に、「平和」という言葉からいろいろと連想させたり、「平和」の反対語を考えさせたり、今の日本や身の回りの状況が本当に平和と言えるのかを考えさせたりすることを通して、身近に起こり得る仲間同士の争いを平和的に解決することの大切さを理解させる。

(2) 指導過程

段階	教師の働きかけと予想される子どもの活動	留意点
気づく	○「平和」と聞いていろいろな言葉を連想することでしょう。その逆に、「平和の反対語は何？」と聞かれると、みなさんならどう答えますか。	・平和の反対は「平和ならざる状態」であり、戦争のない状態が必ずしも平和とは限らないことを押さえる。
深める	○平和という言葉は様々な次元で使われることをここで指摘しておきましょう。例えば、「家庭内の平和」、「夫婦間の平和」、「学校の中の平和」、「地域の平和」、「地球の平和」、「国家間の平和」ほかにどんな次元が考えられるでしょうか。 ・このように平和という言葉の使われ方は様々です。しかし、そこに何らかの共通点を見いだすことができないでしょうか。 ○仲良し3人組のAさん、自分、Cさんの間でAさんとCさんがケンカになり対立し始めた。実際の場面で、あなたならどうしますか。	・様々な次元で平和を考えることで、身近な平和について捉える。 ・紛争がおきたとしても、できるだけ非暴力的に問題解決に当たることが平和的解決能力であることを押さえない。

広 げ る	1. AとCを仲直りさせるための方法を考える。 2. 比較的仲がいい方について、他方を無視または共に攻撃する。 3. 両方から離れる。 4. 両方と交互に付き合う。 5. その他 ・＜平和学習の出発点＞ 私たちは、たいそうなことはできません。しかし、私たちの気づかないところで、何かが起きていることに「気づく」ことが平和を学ぶことのスタートです。 ○自分が一番気になっているニュースや出来事に関して、その問題がどのような問題を抱えているのか、問題を悪化させている要因は何か、その問題にかかわっている当事者は誰かということを考えてみよう。	・最近の新聞を持ち寄り、その中で自分をもっとも気になるニュースを取り出して、その原因について考える。 ・その出来事が、自分たちとどのような関わりがあるかを考えさせたい。
-------------	--	--

4 授業後の反省と評価

平和を学ぶスタートとして、「平和とは何か」ということを深く考える授業とした。平和という言葉の意味を深く考えることから、普段の生活が本当に平和な状態なのかということを考える機会とした。そこから身近に起きている様々な問題に視野を広げて、平和的解決能力ということに意識を向けようと考えたが、そこまでの理解は深まらなかった。この後の授業として、身近に起きている問題を取り上げ、その問題がどのような問題を抱えているのか、問題を悪化させている要因は何か、その問題に関わっている当事者は誰かといったところを考えることから、平和的に問題を解決するための能力を養いたい。

質問1. 「平和という言葉から何をイメージしますか。」

※生徒の原文のまま

- ・人々が安心して日々の生活を送れる。人々が幸せに暮らせる。
- ・戦争がない。小さな犯罪も起こらない。安全でけんかがない。みんなが笑っている。温かい。
- ・嘘やずるによる事件が何も起こらず、国民全員が決まりを守って生活できる世の中。
- ・人が嫌がることをしないで人との関わりがとても良く、みんな仲が良い国。
- ・国同士や国内の争いがなくて、国民全員が穏やかに生活しているイメージ。
- ・ありのままの自然満載の国で人を思いやる心がある。みんなが優しい国のイメージ。
- ・戦争や争いや奪い合いなどなく、ごく普通に生活しているイメージ。
- ・人が死ぬことが少ない。全員が困らない。全員が平等に生活できる。
- ・誰もが何不自由なく生活ができる。
- ・原爆のない世界、自然災害などが起こらないこと。
- ・他人を軽蔑したり憎んだりせず、自然に誰とでも仲良くできて、自然に協力できて、自然にみんなに自分の気持ちを表現し、伝え合えることができる。
- ・平和を描く物語では、人々が衣食住に恵まれて、苦しまずに温かい暮らしをしている。

質問2. 「日本は平和な国」と言われていますが、本当にそうだと思いますか。※生徒の原文のまま

- ・平和だと思う・・・14人
- ＜理由＞
- ・他の国に比べると平和だと思う。
 - ・日本は戦争をすることを憲法で禁止しているし、銃を持つことも許されないから。
 - ・日本は、ボランティアなども進んで行っているから。
 - ・他の国では、スリや窃盗が頻繁に起こっているから。
 - ・他の国では、学校に行けない子や食事をお腹いっぱい食べられない子がいる。
 - ・殺人事件などの悪いニュースや自殺者が多いことから100%平和とはいえない。

- ・平和だと思わない・・・19人

<理由>

- ・集団的自衛権の行使や日中関係の悪化を見ると平和と思えない。
- ・日本は平和だが、他の国の問題を作り出している。
- ・自殺者が多いことから、仕事や学校などに不満がある人が多いという面では平和といえない。
- ・人の気持ちを考えない人もいるし、他人に自分の気持ちを正直に伝えることができず、苦しんでいる人もいるので平和とは思えない。
- ・多数決で全員が一致して決まらないだけでも平和とはいえないと思う。
- ・いじめや殺人などが多く起きているので平和とはいえない。
- ・外見だけで見ると平和かもしれないけれど、国民一人一人の心の中は不満でいっぱいだと思う。
- ・自分勝手な気持ちでルールを破り人が死ぬ事件や、自殺してしまう人が多く、苦しんでいるのに誰も助けられないのは全然平和ではないと思う。

質問3. 「日本の平和」が脅かされそうとしている問題には何があると思いますか。

- ・殺人事件の多発、集団的自衛権、珊瑚の密漁、領土問題、いじめ、虐待
- ・総理大臣が短期で変わりすぎていること。
- ・自分中心の考えしかもたない人が多くなっていること。

質問4. 「平和」の反対語は何？と聞かれると、みなさんならどう答えますか。

- ・不幸（10人） ・不平等（10人） ・戦争（7人） ・非平和、不平和（4人）
- ・複雑 ・危険 ・不安定 ・不快 ・争い ・破壊 ・地獄

質問5. 平和という言葉はさまざまな次元で使われるということをここで指摘しておきます。

例えば、「家庭内の平和」、「夫婦間の平和」、「学校の中の平和」、「地域の平和」、「国家間の平和」、「地球の平和」、ほかにどんな次元が考えられるでしょうか。

「クラスの平和」	「学年の平和」	「友達の平和」	「部活の平和」	「兄弟の平和」
「姉妹の平和」	「日常の平和」	「家族の平和」	「部屋の平和」	「恋愛の平和」
「みんなの平和」	「生活の平和」	「この世の平和」	「親子の平和」	「人種間の平和」
「宗教間の平和」	「師弟の平和」	「仕事場の平和」	「環境の平和」	「人間関係の平和」
「心の平和」	「自然の平和」	「他文化間の平和」	「班の平和」	

質問6. 仲良し3人組のAさん、自分、Cさんの間で、AさんとCさんがケンカになり対立し始めた。あなたならどうしますか。

1. AとCを何とか仲直りさせるための方法を考える。・・・12人
2. 比較的仲が良い方について、他方を無視または共に攻撃する。・・・2人
3. 両方から離れる。・・・3人
4. 両方と交互に付き合う。・・・5人
5. その他・・・9人

<その他の意見>

- ・両方と普通に付き合った方が平和に生活できると思う。
- ・ケンカの理由を聞き、止められる限り止める。
- ・二人が完全に分かり合えるまで話し合う。

＜道徳＞ 平和への思い

思いを語ろう！

2年 組 番【氏名】

☆「平和」という言葉から何をイメージしますか。その逆に、「平和の反対語は何？」と聞かれると、みなさんならどう答えますか。

★「日本は平和な国」と言われていますが、本当にそうだと思いますか。

★「日本の平和」が脅かされようとしている問題には何があると思いますか。

★「平和な世界」にするために必要なことは何だと思いますか？

実践発表後の研究協議

- ・「深める」の段階で、「仲良し3人組の…中略…対立し始めた。実際の場面で、あなたならどうしますか。」という発問は、平和という言葉イメージさせたいということと、争いが起きても暴力を使わないで問題解決にあたることを平和的解決能力であることを押さえたかったからで、この授業のメインの学びと考えました。
- ・平和という言葉の反対語を考えさせた場面で、中学生が、不平等、不安、不快などは平和ではないと考え挙げているのはすごいなと思いました。自分なんかは、平和の反対は、すぐに「戦争」とってしまうので、改めて感心しました。
- ・平和教育は、「いつでも、どこでも、誰でもできる平和教育」という認識のもと、扱う内容はクラスの問題、学校の問題、国や地域の問題、国際社会の問題等、さまざまなレベルがあり、それぞれ課題があるという押さえでやってきましたが、齊藤先生の実践は、それぞれのレベルの平和をつなげているのではないかと受け止めました。
- ・齊藤先生の実践は、3つの柱があります。①絶えず自分というところから始まっている。②自分の周りで起っていることは何だろうと考えている。③自分とのつながりはどうなっているのか。という3つの柱です。「I Sはひどいことしてるね」「あんなことやっちゃいけないよね。」ではなく、まさに自分はどう考えるか、自分とのつながりはどうなっているのかを考えています。私たちが考える平和教育の出発点であり、平和教育のとてもいい柱を立てていただいたと思います。

組合員のみなさんへ

広めよう、つなげよう

みんなで草の根の平和教育実践を

はじめに

静教組立教育研究所は、「実践者と研究者の協働により、憲法・子どもの権利条約に基づいた研究をすすめる」「教育のあり方に関する理論的研究や今日的な教育課題についての実践的な研究にとりくむ」「静教組運動の前進につながる調査活動や情報発信の充実に努める」の3つを方針に教育現場に密着した研究・事業をすすめてきました。設立40年を経て、組合員のみなさんによって積み上げられた教育実践は、脈々と受け継がれ、静岡の教育の礎となっています。

「国際連帯と平和教育研究委員会」では、共同研究者の大学教授とともに、県内各地の小・中学校教職員から選ばれた所員によって実践と研究をすすめてきました。2014-2015年度の2年間の実践研究のまとめとして所報を発行するにあたり、教育実践の拡大・浸透を図るとりくみを広く組合員のみなさんに投げかけることとしました。

【研究実践の拡大・浸透にむけたとりくみ】

1 スローガン

「広めよう、つなげよう、みんなで草の根の平和教育実践を」

2 とりくみの内容

- ・「国際連帯と平和教育研究委員会」の所報に掲載されている所員の教育実践を実際にやってみて検証したり、参考にして新たな教育実践をしたりしてください。
- ・とりくんだ教育実践について、別に示す様式を参考に実践記録にまとめ、紙媒体または電子媒体で教育研究所に送付してください。
- ・応募していただいた実践のいくつかを研究所レポートの中で紹介し、再び還流します。

3 募集期限および応募先

- ・2017年1月31日（火）必着
- ・「静岡県教職員組合立教育研究所」宛 郵送またはEメール
〒420-0856
静岡市葵区駿府町1-12 静岡県教育会館3階
Eメール：sier@stu.or.jp



所報 No.153



所報 No.150



所報 No.142

4 実践記録の様式

(1) 留意点

- ・実践記録は、下の様式を参考に A 4 判 2 ～ 4 ページ以内（余白は上下左右 20 mm）でまとめてください。
- ・フォントは明朝体で、文字サイズは原則 11 ポイントを基本とします。ただし、実践者の意図等により変えたい場合は、この限りではありません。
- ・写真、図、板書などを入れ、わかりやすい実践記録となるよう工夫してください。
- ・児童生徒の顔や氏名など、個が特定されないよう十分配慮してください。写真や作品の掲載にあたっては、本人と保護者の許諾を得てください。
- ・資料の引用、転載の際には、出典を明示してください。

(2) 様 式

※実践の題、単元名等を入れる。	○学校○年 ○○科
例 ○○○について考える ○○○な力の育成をめざして	※校種、学年、教科等
※実践者の氏名 ○○○○	※現在の在籍校 (△△△立□□□学校)

【実践にあたって】

- ※ 実践にとりくむきっかけ、実践のねらい、指導者の意図やねがい等を記述します。
- ※ 3 ～ 6 行程度におさめます。

【実践の具体】

- 1 単元名等
- 2 目標・ねらい等
- 3 指導の具体

- ※ 単元計画や指導過程等、指導や実践の流れがわかるよう工夫して記述してください。

- 4 実践後の反省と評価

- ※ 実践の成果と課題について、平和教育の実践という視点をもって記述します。
- ※ 箇条書きでも通常の文章でも結構です。写真等も入れてください。

- 5 資料・参考文献等

- ※ 実践で使った資料、ワークシート、板書や教材等の写真を添付します。

5 その他

- ・実践募集の対象は、静教組組合員とします。
- ・複数の組合員による共同実践でも構いません。
- ・過年度の実践をまとめて報告しても構いません。
- ・応募して下さった組合員には、研究費として図書券を贈呈し奨励を図ります。
- ・募集する実践記録は、概ね 20 本程度とします。
- ・提出された実践記録を掲載する発行物の著作権は、教育研究所に帰属します。

国際連帯と平和研究委員会（2014～2015年度）

共同研究者

伊藤 恭彦（名古屋市立大学教授） 14～15

所 員

嶋田 成幸（東豆支部） 14	中田健太郎（東豆支部） 14～15
清水亜矢子（沼津支部） 14～15	齊藤 秀典（富士支部） 14～15
稲葉 研二（清庵支部） 14	伊藤 秀男（志太支部） 15
野村 智子（榛原支部） 14～15	増田 賢（小笠支部） 14～15
樽林 正人（磐周支部） 14～15	倉田 智幸（浜松支部） 14
中西 啓介（浜松支部） 15	尾崎 紀佳（湖西支部） 14
鈴木 伊織（湖西支部） 15	

事務局

細川 幹太 14	大石 茂生 15
平柳有紀子 14～15	野中 律宏 14～15

ものごとを多面的に捉え、平和的に解決できる力を育てるために
～ いつでも、どこでも、誰でもできる平和教育実践記録集 ～

編集・発行／静岡県教職員組合立教育研究所「国際連帯と平和研究委員会」

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1番12号 静岡県教育会館

発行者／教育研究所運営委員長 鈴木伸昭

発行日／2016年1月



8つの事業団体に協力し、静岡県教育事業団体として、次のような活動をしています。

教育講演会

問い合わせ先 静岡県教育会館事務局 TEL 054-252-1011

専門家、著名人を招いて、県下24地域で実施予定（平成27年度）

教職員芸術祭

問い合わせ先 静岡県教職員組合芸術祭係 TEL 054-255-0156

教職員作成の作品を展示

〈第46回静岡県教職員芸術祭〉

展示期間 平成28年1月27日(水)～1月31日(日)

展示会場 静岡市清水文化会館 マリナート

小中学生国際交流体験団

問い合わせ先 国際交流体験団事務局 TEL 054-254-2486

オーストラリアとカナダでの国際交流体験の企画と実施

〈第42回〉平成27年8月 オーストラリア【8日間】実施予定

〈第43回〉平成28年3月 カナダ【8日間】実施予定



平成26年8月 第40回国際交流体験団
(オーストラリア・シドニーにて)

一般財団法人 静岡県教職員互助組合

生活に安心・元気・うるおいを！



静岡市葵区駿府町1-12 静岡県教育会館2F TEL:054-254-3626
互助組合ホームページへは、[ごじょう丸](http://www.kyousyokuin-seikyo.com/) で検索

静岡県教職員生活協同組合



チラシ・カタログによる自主供給 & 組織供給を主体とし、巡回供給、ガソリン供給、マンション、指定店など教職員のみなさまの生活をサポートしています。



静岡市駿河区登呂 6-14-27 TEL 054-282-2140
HP <http://www.kyousyokuin-seikyo.com/>

静岡県学校生活協同組合連合会



学生協は子どもの未来を考えます。

静岡県内の各地区学生協と連携して学用品を企画開発し、供給しています。



静岡市駿河区登呂 6-14-27 TEL 054-282-2166
HP <http://www.kyousyokuin-seikyo.com/>

一般社団法人 静岡県出版文化会



教育活動を支援する教育文化事業や子どもたちの学習活動を支える図書教材研究事業を行っています。県内各地から、毎年多くの先生がたが両事業に参加しています。



夏休み子ども学習電話相談室

静岡市葵区駿府町1-12 静岡県教育会館3F TEL 054-255-4451
HP <http://www.syutubun.com/>

静岡県教育事業団体連絡会

教育と生活をサポート

私たち
教育事業団体は
みなさまの
サポーターです

公益財団法人 日本教育公務員弘済会静岡支部



教育振興（奨学・教育研究助成・教育文化）、福祉、共済（提携保険）の各事業で子どもたち、先生がた、保護者のみなさまの教育・研究活動を支援するとともに先生がたの生涯の安心をお届けしています。



静岡市葵区駿府町1-12 静岡県教育会館4F TEL 054-205-5130

株式会社 静岡教育出版社

環境・体にやさしい教材づくり

『ファミリス』
購読者拡大
キャンペーン
実施中!!

※年度途中からの購読も承ります。



静岡市駿河区曲金 5-5-38 TEL 054-281-8870
HP <http://www.shizedpu.co.jp/>

国際観光株式会社



KOKUSAI 学ぶ心を広げる価値ある修学旅行の推進

弊社では修学旅行の安全対策と学習指導要領の理解に重点をおいた社員教育を行い、魅力ある教育旅行を提供しています。



本社：静岡市葵区伝馬町 6-18 109ビル 5F TEL 054-254-2486
HP <http://www.kokusai-kanko.co.jp/>

静岡県住宅建設工業株式会社



住む人の心を癒し、住む人に適し、そして環境への優しさが満たされる健康な家を提案し、教職員の方々の希望に応えられるように最大限努力しています。



静岡市駿河区登呂 6-14-14 TEL 054-281-2277
HP <http://www.jukenko.com/>

<http://www.stu.jp/>

最後までお読みいただきありがとうございました。この所報をお読みになったご意見・ご感想をお聞かせください。皆さんからいただいたご意見・ご感想は、今後の研究活動や成果発信に生かします。

STU Institute of Educational Research
静岡県教職員組合立教育研究所

FAX : 054-255-5110

Mail : sier@stu.or.jp (ご意見専用研究所メールアドレス)